

D I S K O R C H E S T R A M O D U L E

**DOM-30**

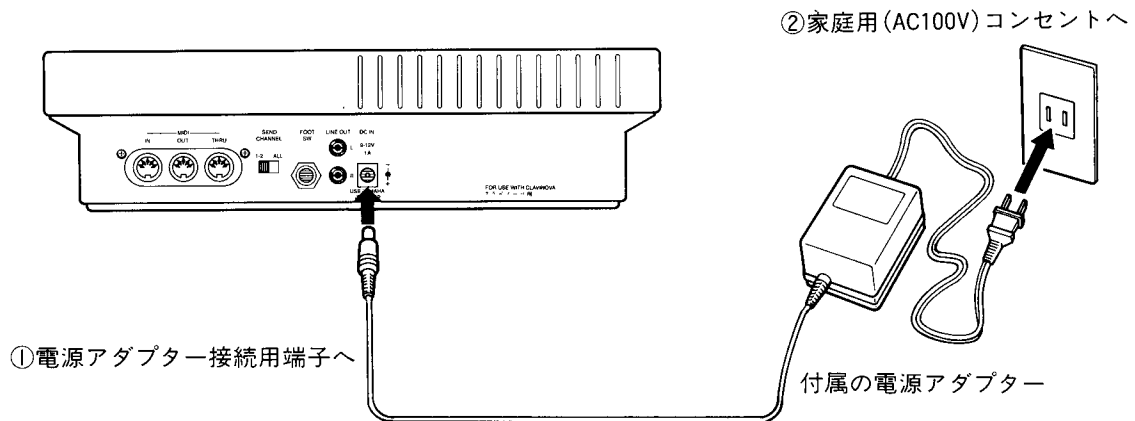
取扱説明書 **YAMAHA**  
クラビノーバ用

# とりあえず使ってみよう

付属の再生専用フロッピーディスクを最も手短な手順で再生する方法を紹介します。

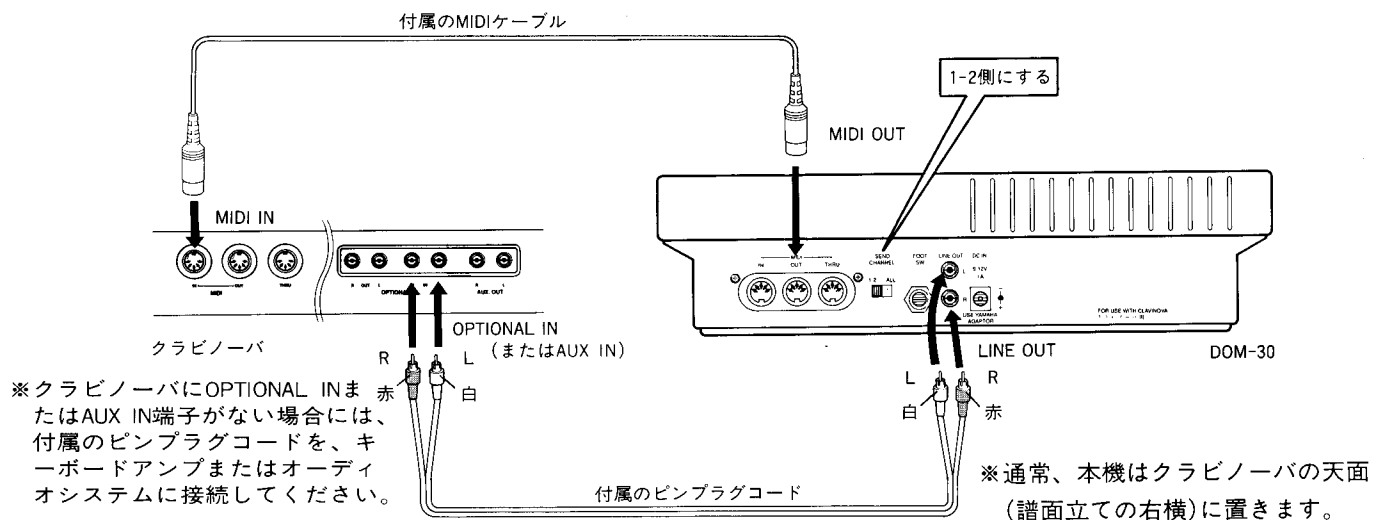
- ※必ず番号順に行ってください。
- ※フロッピーディスクは、特にていねいにお取り扱いください。
- ※詳しい説明は、それぞれの項で順を追って説明します。

## 1. 電源のしたく



## 2. クラビノーバとの接続

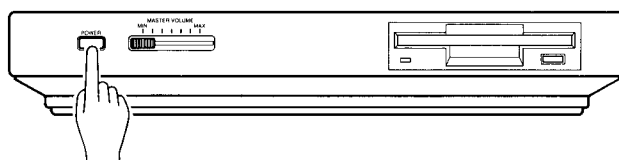
※本機およびクラビノーバの電源が切っていることを確認してから、接続してください。



## 3. 電源を入れる

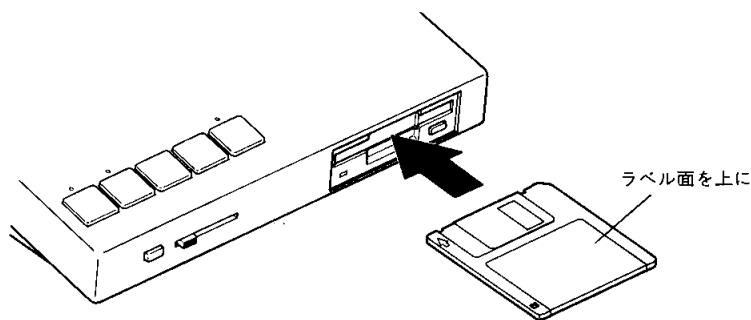
※CVP-6、CVP-8、CVP-10、CLP-300、CLP-500等を接続した場合は、ファンクションボタンを押しながら電源を入れてください。(28ページの“18. タッチ・チェンジのオン/オフ切替”参照)

※クラビノーバの電源も入れてください。

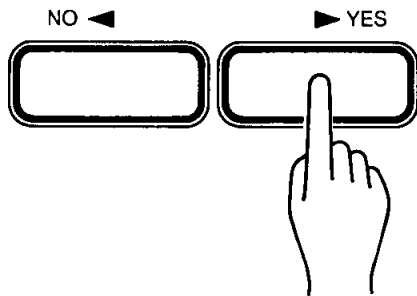


## 4.再生

①付属の再生専用フロッピーディスクを差し込む。



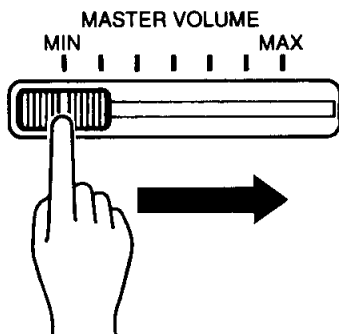
②ノー◀または▶イエスボタンを押して、曲番号を指定する。



SONG\_NO 2

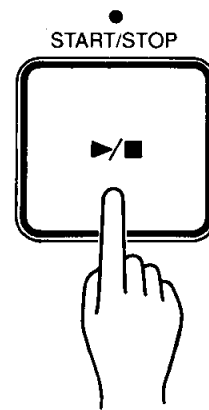
↑  
再生させる曲番号を表示させる。

③マスターボリュームを右にずらす。



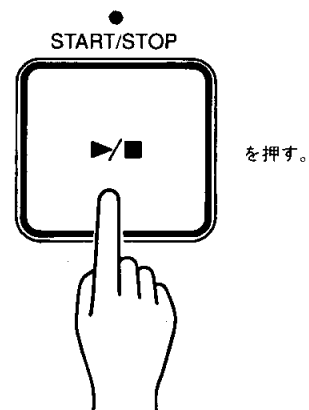
④クラビノーバのマスターボリュームを上げる。

⑤スタート▶/ストップ■ボタンを押す。



すると、再生が始まります。(最後まで再生されると、自動的に停止します。)

⑥再生を途中でやめるなら……



このたびは、ヤマハ・ディスクオーケストラモジュール・DOM-30をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

ディスクオーケストラモジュール・DOM-30は、ヤマハが誇るデジタルテクノロジーを結集して完成させた装置です。

DOM-30は、ディスクレコーダーと音源モジュールの両方の機能を合わせ持っています。ディスクオーケストラコレクション等の別売りディスクを再生させたり、自分の演奏を記録してそれを再生させたり、様々な使い方ができます。

本書では、このDOM-30の正しい取り扱い方を説明しています。長年支障なくお使いいただくためにも、この取扱説明書を必ずお読みください。

## もくじ

	ページ
1. DOM-30早わかり(接続) .....	2
2. 各部の名称とはたらき .....	3
3. ディスクについて .....	6
4. 再生させてみよう .....	7
準備 .....	7
再生 .....	7
補助機能 .....	8
5. 演奏を記録してみよう .....	13
接続 .....	13
ディスクフォーマットの方法 .....	13
記録 .....	14
補助機能 .....	16
多重録音のモード .....	18
多重録音の方法 .....	19
6. 編集機能 .....	23
7. MIDI セットアップ .....	25
8. エラー表示について .....	32
9. 仕様 .....	32
10. 音色一覧表 .....	33
11. 表示一覧表 .....	34
12. おかしいな?と思ったら .....	36
13. アフターサービスと保証 .....	38

## ご注意

### 設置場所



次のような場所でご使用になりますと、故障などの原因となりますのでご注意ください。

- 窓際などの直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に暑い場所
- 温度の特に低い場所
- 湿気やホコリの多い場所
- 振動の多い場所
- 水平に設置できない場所

### お取り扱い



落としたり、物をぶつけたり、上に乗るなど、乱暴に扱わないでください。傷がついたり、故障の原因となることがあります。

### 電源の処理



使用後は、パワースイッチを切り、電源アダプターを家庭用コンセントから抜いてください。

### 外装のお手入れ



お手入れは、乾いた布でカラぶきするか、汚れのひどい時は少し水で湿らせた布でふいてください。アルコールやシンナー類は、絶対に使用しないでください。

### 他の電気機器への影響



ラジオやテレビのすぐ近くで使用されますと、ラジオやテレビ側で雑音が発生したり、誤動作することがあります。十分に離してお使いください。

### ディスクの取り扱い



フロッピーディスクは、非常にデリケートなしくみになっていますので、取り扱いには十分注意してください。(詳しくは6ページ“3. ディスクについて”参照)

### 移動の際には



本機を移動する場合は、コード類の断線やショートを防ぐため、コード類を全て取り外してください

### 保証書の手続き



お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きをとってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でも修理の費用をいただくこととなりますので、充分ご注意ください。

### 保管



この取扱説明書をお読みになった後は、保証書と共に大切に保管してください。

# 1. DOM-30早わかり(接続) ●ここでは、DOM-30のできることを中心に説明します。

## システム1(鑑賞)

次のフロッピーディスクを再生して楽しむことができます。また、再生に合わせて、自分で演奏することもできます。

### ●付属のディスク(再生専用)

いくつかのパートがトラックといわれる最大16の区分に分けて記録されたディスクで、このようにして記録された曲が数曲入っています。基本的に各パートが別々の音色で再生されます。

### ●別売りのディスクオーケストラコレクションのディスク(再生専用)

いくつかのパートが最大16のトラックに分けて記録されたディスクで、このようにして記録された曲が10曲前後入っています。基本的に各パートが別々の音色で再生されます。

### ●ヤマハ・ピアノプレーヤー用のクラビノーバ用ディスク(再生専用)

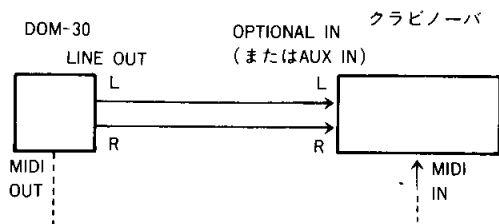
1パートまたは数パートが記録されたディスクです。

### ●別売りの生のディスクに記録した自分の演奏(記録・再生用)

1つのパートを1つのトラックに記録した曲から、最大16パートを最大16トラックに記録した曲まで、自由に再生できます。

[接続]いずれかの接続をして再生します。

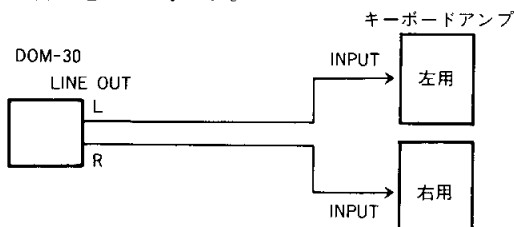
- トラック1と2をクラビノーバの音源で鳴らし、それら以外を本機の音源で鳴らす基本的な接続。アンプおよびスピーカーはクラビノーバ内蔵のものを使う。



※接続の前に、クラビノーバにMIDIイン端子とオプション・イン端子またはAUXイン端子があるか確認してください。(CVP-3、CVP-5、CVP-6、CVP-7、CVP-8にはありません。)ない場合には、付属のピンプラグコードをキーボードアンプまたはオーディオシステムに接続してください。

※本機リアパネルのセンドチャンネルスイッチを1-2側にします。

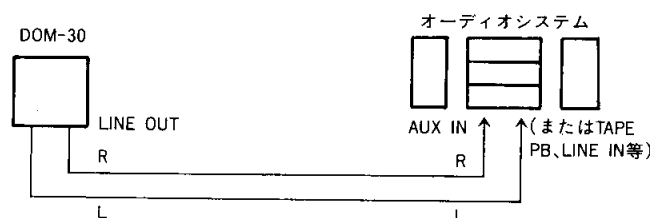
- 全てのトラックの音を本機の音源を使い、キーボードアンプを2台用意して鳴らす。



※接続の前に、キーボードアンプの入力端子の形状を確認してください。中には変換プラグが必要なものもあります。

※本機リアパネルのセンドチャンネルスイッチをオール側にします。

- 全てのトラックの音を本機の音源を使い、オーディオシステムのアンプおよびスピーカーを使って鳴らす。



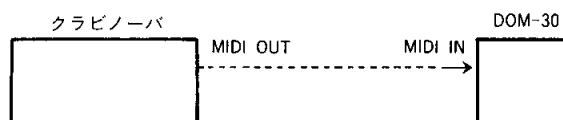
※本機リアパネルのセンドチャンネルスイッチをオール側にします。

## システム2(自分の演奏を記録)

別売りのフロッピーディスクを用意して、それに自分の演奏を記録する。1つのパートの記録だけでなく、複数のパートをそれぞれの音色で、それぞれのトラックに記録できます。もちろん、そうして記録したディスクの曲も、付属のディスクや別売りの再生専用ディスクと同じように自由に再生できます。

- 記録の際、クラビノーバで演奏します。
- 演奏内容は、本機にセットした別売りの記録・再生用フロッピーディスクに記録します。
- 記録されるものは押鍵の情報だけでなく、音色切り替えや音量調節、テンポ変更の情報も含まれます。
- 記録した演奏は、後で自由に再生することができます。
- 再生の際、テンポや音色、音量を、記録の時と変更することも可能です。
- 自分の演奏を後で聴いてみると、上達ぶりをじっくりと確かめることができますし、たいへん楽しいものです。
- いくつかの音色による演奏パートを、1回ずつ分けて記録していくことができます。こうして記録した曲でも、再生時には何人もの人が同時に演奏しているように聞こえます。

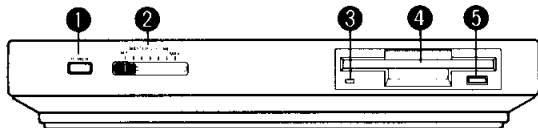
[接続]演奏用のクラビノーバを接続します。



※再生のための接続およびセンドチャンネルスイッチの設定は、システム1と同じです。

# 2.各部の名称とはたらき

## フロントパネル



### ① パワースイッチ(→7ページ)

電源を入れたり、切ったりするスイッチです。

### ② マスターボリューム(→7ページ)

再生の音量を調節するレバーで、右の方にずらすほど音が大きくなります。

### ③ ユーズランプ(→6ページ)

本機とフロッピーディスクの間でデータがやりとりされている時に点灯するランプです。点灯している時は、ディスクを取り出したり、電源を切ったりしないでください。

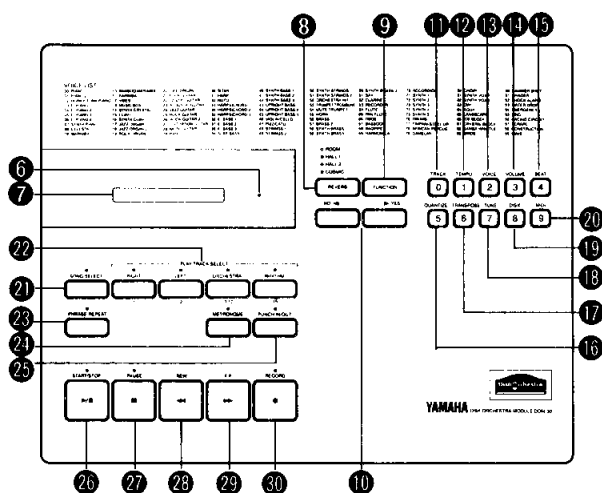
### ④ ディスク挿入口(→6ページ)

フロッピーディスクを挿入するところです。

### ⑤ ディスク取り出しボタン(→6ページ)

フロッピーディスクを取り出す時に押すボタンです。

## コントロールパネル



### ⑥ ビートランプ

テンポを目で確認するためのランプです。常に設定したテンポで点滅します。(1拍に1回点灯)

※内部クロック/外部クロックの設定をEXT(外部クロック)にした場合は、外部機器のクロックに同期して点滅します。

### ⑦ ディスプレイ

曲番号や設定値、メッセージなど、様々な情報を表示します。

### ⑧ リバースボタン(→10ページ)

リバースをかけることができます。リバースをかけると、音の響きが豊かになります。4種類の効果とオフがありますので、ボタンを押して選んでください。

### ⑨ ファンクションボタン(→9ページ)

再生や記録の際、ファンクションメニュー(設定項目)を指定するのに使います。ファンクションメニューには、曲のテンポや拍子をはじめ様々なものがあります。ファンクションメニューは、このボタンを押しながら⑪~⑳の該当するボタンを押して指定します。

### ⑩ ノー◀、▶イエスボタン

再生や記録時に曲番号を指定したり、ファンクションメニューの値を指定するなど、様々な設定をするボタンです。

※⑩のレコード●ボタンを押しながらこれらのボタンを押すことにより、記録するトラックを指定できると共に、記録待機状態にすることができます。

### ⑪ トラックボタン(→9ページ)

音色や音量を指定したり変更する時には、⑨のファンクションボタンを押しながらこのボタンを押して、変更するトラックを指定します。

※練習時に鳴る演奏者の音色は、この方法で指定したトラックの音色です。ただし記録時は、記録するトラックの音色で鳴ります。

### ⑫ テンポボタン(→10ページ)

記録や再生のテンポを変更する時には、⑨のファンクションボタンを押しながらこのボタンを押して、テンポ変更を可能にします。

### ⑬ ボイスボタン(→9ページ)

各トラックの音色を変更する時には、⑨のファンクションボタンを押しながらこのボタンを押して、音色変更を可能にします。

### ⑭ ボリュームボタン(→9ページ)

各トラックの音量を変更する時には、⑨のファンクションボタンを押しながらこのボタンを押して、音量変更を可能にします。

### ⑮ ビートボタン(→15ページ)

記録する曲の拍子を指定する時には、⑨のファンクションボタンを押しながらこのボタンを押して、拍子の指定を可能にします。

#### 16 クォンタイズボタン(→17ページ)

記録済みのトラックの演奏(押鍵のタイミング)のバラツキをなくすため、クォンタイズをかける時には、⑨のファンクションボタンを押しながらこのボタンを押して、クォンタイズを可能にします。

#### 17 トランスポーズボタン(→10ページ)

演奏音を移調しながら記録したり、記録されている音を移調しながら再生する時には、⑨のファンクションボタンを押しながらこのボタンを押して、設定を可能にします。

#### 18 チューンボタン(→11ページ)

本機の音の音程を外部機器(キーボード、ギター、音源ユニットなど)の音の音程と合わせる時には、⑨のファンクションボタンを押しながらこのボタンを押して、チューニングを可能にします。

#### 19 ディスクボタン(→23ページ)

記録可能なフロッピーディスクに対して編集機能を使う時には、⑨のファンクションボタンを押しながらこのボタンを押して、編集メニューを指定します。

#### 20 MIDIボタン(→25ページ)

MIDI送・受信に関する設定をする時には、⑨のファンクションボタンを押しながらこのボタンを押して、設定する項目を指定します。

※⑪～⑳のボタンはテンキーの働きを兼ねており、曲番号、音色番号、音量、テンポ等を直接数値で指定できます。

#### 21 ソングセレクトボタン(→7ページ)

このボタンを押すと、再生や記録する曲を指定することが可能になります。

ボタンを押してボタン上のランプを点灯させた状態がオン、つまり曲の番号を指定できる状態です。またこの状態からもう一度このボタンを押すと、ボタン上のランプが消灯してテンポを指定できる状態に変わります。

#### 22 プレイトラックセレクトボタン(→9ページ)

再生させないトラックを指定するボタンです。つまり、不必要な演奏パートをオフすることができます。再生させる場合はボタン上のランプを点灯、再生させない場合は消灯させます。

##### 1(ライト):

トラック1に記録されているパートをオン/オフできます。なお再生専用ディスクのトラック1には、基本的に右手パートが記録されています。生の記録・再生用ディスクに記録する場合も、トラック1には基本的に右手パートの演奏を記録します。

※⑳のレコード●ボタンを押しながらこのボタンを押すことにより、トラック1への記録待機状態にすることができます。

##### 2(レフト):

トラック2に記録されているパートをオン/オフできます。なお再生専用ディスクのトラック2には、基本的に左手パートが記録されています。生の記録・再生用ディスクに記録する場合も、トラック2には基本的に左手パートの演奏を記録します。

※⑳のレコード●ボタンを押しながらこのボタンを押すことにより、トラック2への記録待機状態にすることができます。

##### 3-10(オーケストラ):

トラック3-10に記録されている8つのパートをまとめてオン/オフできます。(別の方法で、トラックごとにオン/オフを選択することもできます。)

なお再生専用ディスクのトラック3-10には右手、左手以外のパートが記録されています。生の記録・再生用ディスクに記録する場合も、トラック3-10には基本的に右手、左手以外のパートの演奏を記録します。

※⑳のレコード●ボタンを押しながらこのボタンを押すことにより、トラック3~10いずれかへの記録待機状態、テンポの変更を記録できる状態、または全トラックへの同時記録状態にすることができます。

##### 15(リズム):

トラック15に記録されているリズムパートをオン/オフできます。なお再生専用ディスクには、トラック15にリズムパートが記録されています。生の記録・再生用ディスクにリズムパートを記録する場合も、必ずこのトラックに記録します。

※⑳のレコード●ボタンを押しながらこのボタンを押すことにより、トラック15へのリズムパート記録待機状態にすることができます。

#### 23 フレーズリピートボタン(→11ページ)

曲中の希望する区間だけを繰り返し再生させる時に、このボタンを使用します。

#### 24 メトロノームボタン(→15ページ)

メトロノーム音を鳴らしたり、切ったりするボタンです。ボタンを押してボタン上のランプを点灯させた状態がオン、つまりメトロノーム音が鳴る状態です。

#### 25 パンチイン/アウトボタン(→22ページ)

「記録をしたが演奏を失敗した。」という場合には、パンチイン/アウトという機能を使うと便利です。失敗した区間だけ、記録しなおすことができます。この機能を使う場合には、このボタンでやりなおす区間を指定してください。

### ②⑤ スタート▶/ストップ■ボタン(→8ページ)

再生や記録をスタートさせたり、停止させるボタンです。

### ②⑦ ポーズ||ボタン(→8ページ)

再生を一時停止させたり、一時停止させたところから再びスタートさせるボタンです。

### ②⑧ 戻し◀◀ボタン(→8ページ)

希望するところまで、曲を戻すことができます。停止中または一時停止中に押すと、押すごとに1小節単位で曲が戻ります。希望するところになるまで繰り返し押してください。

また再生中に押した場合は、ボタンを押している間曲が戻ります。希望するところまで戻ったら、ボタンを離してください。そこから再生が再開されます。

### ②⑨ 早送り▶▶ボタン(→8ページ)

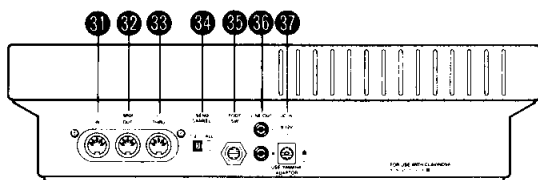
希望するところまで、曲を進めることができます。停止中または一時停止中に押すと、押すごとに1小節単位で曲が進みます。希望するところになるまで繰り返し押してください。

また再生中に押した場合は、ボタンを押している間曲が進みます。(この場合は早送り中の音がします。)希望するところまで進んだら、ボタンを離してください。そこから通常の再生が再開されます。

### ③⑩ レコード●ボタン(→15ページ)

演奏を記録する時に使用するボタンです。

## リアパネル



### ③⑪ MIDI IN端子(→13ページ)

記録する時は、この端子とクラビノーバのMIDI OUT端子を接続します。これにより、クラビノーバでの演奏情報を受信可能になります。

### ③⑫ MIDI OUT端子(→2ページ)

外部機器の音源を使って再生音を鳴らす時は、この端子とクラビノーバ(または音源ユニット、リズムマシン)のMIDI IN端子を接続します。これにより、再生情報をクラビノーバ(または音源ユニット、リズムマシン)に送信可能になります。

### ③⑬ MIDI THRU端子

③⑪のMIDI IN端子で受ける情報と同じものが、ここからそのまま送信されます。

### ③⑭ センドチャンネルスイッチ(→7ページ)

③⑫のMIDI OUT端子から再生情報を送信させる場合は、このスイッチで送り出すトラック(演奏パート)の範囲を指定してください。1-2側にすると、トラック1(右手パート)とトラック2(左手パート)の再生情報を送信可能、オール側にすると全トラック(全パート)の再生情報を送信可能になります。

※1-2側の場合はトラック1と2の音は本機側の音源では鳴らず、外部機器側の音源でのみ鳴らすことが可能です。これに対しオール側にした場合は、どちらの音源でも鳴らすことが可能です。

### ③⑮ フットスイッチ端子(→11ページ)

別売りのフットスイッチ・FC-4またはFC-5を接続してそれを踏むことにより、再生をスタートさせたり、再生を一時停止させることができます。

### ③⑯ LINE OUT端子(→2ページ)

本機での音源による再生音、および記録音がここから出力されます。アンプ(+スピーカー)の役目をする機器と接続してください。

### ③⑰ 電源アダプター接続用端子(→7ページ)

付属の電源アダプター・PA-4を接続するための端子です。



# 3. ディスクについて

大切なフロッピーディスクをこわしてしまったり、自分で記録した演奏を誤って消してしまわないために、次のことを守って正しく取り扱ってください。

## ◆フロッピーディスクの取り扱い

- テレビやスピーカーなど、磁気の強い物に近づけないでください。
- 物をのせたり、折り曲げたりしないでください。
- 直射日光の当たる場所や、高温または低温の場所に置かないでください。
- 水などをこぼして濡らさないでください。
- 内部のディスク表面には手を触れないでください。
- 使用後はケースに入れて保管してください。

## ◆絶対にしてはいけないこと

フロントパネル面にあるユーズランプが点灯している時は、絶対に電源を切ったり、ディスクを取り出さないでください。本機の故障の原因となるばかりでなく、ディスクに記録されている演奏情報をこわしてしまいます。  
※ユーズランプが点灯している最中は、本機とフロッピーディスクの間でデータがやりとりされています。

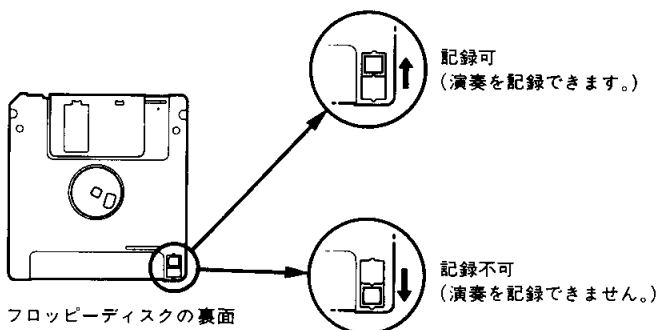
## ◆記録・再生用ディスク

演奏情報を記録するには、パソコンなどで使われているフロッピーディスク(3.5インチ 2DDマイクロフロッピーディスク)を使用します。(まだ演奏情報が何も入っていない生ディスクです。)

この生ディスクに自分の演奏を記録していきます。何枚ものフロッピーディスクを使えば、自分の演奏の記録をどんどん増やしていけます。

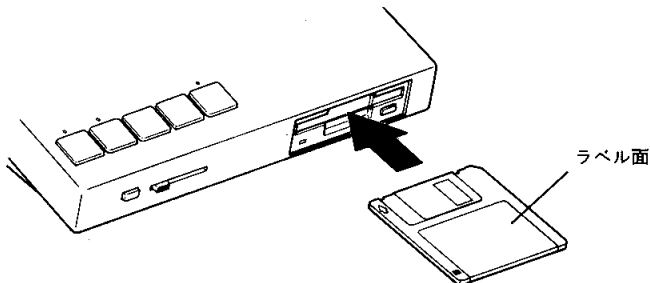
## ◆記録内容の保護について

記録・再生用のフロッピーディスクには、再記録できないようにするツメがあります。大切な演奏はこのツメを記録不可の状態にしておきます。そうすることにより再生はできますが、誤って再記録できないようになります。



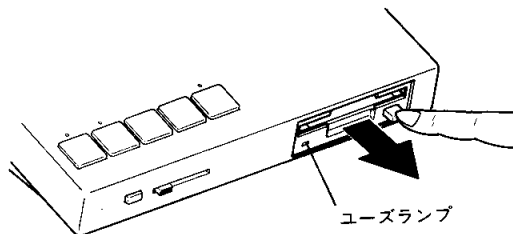
## ◆フロッピーディスクの入れかた

ラベル面を上にして、ディスク装着口へていねいに差し込んでください。



## ◆フロッピーディスクの取り出しかた

ユーズランプが消えていることを確認した上で、ディスク取り出しボタンを押します。



本機に、クイックディスクは差し込まないでください。使用できません。

# 4.再生させてみよう

次のディスクを再生できます。

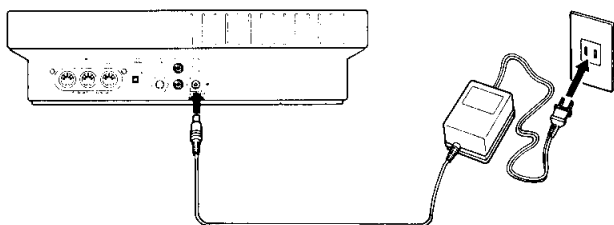
- 付属のディスク
  - ディスクオーケストラコレクションのディスク
  - ピアノプレーヤ用のクラビノーバ用ディスク
  - 自分で演奏を記録した記録・再生用ディスク
- ※パート別に記録してある全トラックの演奏を、一斉に再生させることができます。なお、不必要なパートや自分で練習したいパートをオフにすることもできます。

## 準備

### ①電源アダプターの接続

付属の電源アダプター・PA-4を、次のように接続します。

リアパネルにある電源アダプター接続用端子へ差し込む。



家庭用(AC100V)コンセントへ差し込む。

※他の電源アダプターは使わないでください。

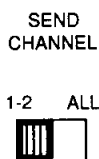
### ②クラビノーバとの接続

2ページの“システム1”の項を参照して、クラビノーバと接続します。

### ③センドチャンネルスイッチの設定

トラック1および2をクラビノーバの音源、それら以外を本機の音源で鳴らす場合はセンドチャンネルスイッチを1-2側に設定します。

また、全てのトラック(パート)を本機の音源で鳴らす場合は、センドチャンネルスイッチをオール側に設定します。



### ④パワースイッチをオン

パワースイッチをオンにします。ディスクを入れていない場合は、パワースイッチを押して電源を入れると、必ず次のような初期メッセージになります。

0001 J = 120

↑  
1小節目の始めて待機中であることを示している。

↑  
テンポ設定がJ=120であることを示している

※CVP-6、CVP-8、CVP-10、CLP-300、CLP-500等を接続した場合は、ファンクションボタンを押しながら電源を入れてください。(28ページの“18.タッチ・チェンジのオン/オフ切替”参照)

※②で接続した機器の電源も入れてください。

## 再生

### ①ディスクの装着

再生するディスクを、ディスク装着口に差し込みます。

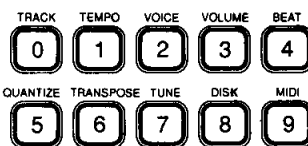
### ②曲番号の指定

再生させる曲の番号を指定します。

②-1: 曲番号を指定できる状態になっていることを確認します。



②-2: テンキーまたはノー◀、▶イエスボタンを押して、曲番号を指定します。



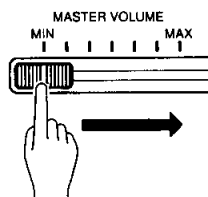
または



SONG\_NO 2

### ③音量の調節

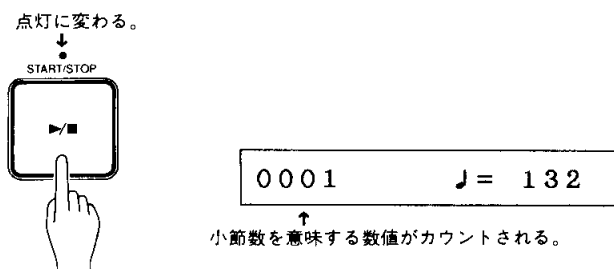
③-1: マスターボリュームを右にずらす。



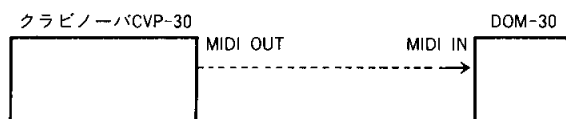
③-2: クラビノーバのマスターボリュームを上げる。

#### ④再生のスタート

本機のスタート▶/ストップ■ボタンを押して、再生をスタートさせます。再生をスタートさせると、次のようになります。



※次のようにCVP-30等のクラビノーバをMIDI接続すると、クラビノーバ側でスタートさせることもできます。

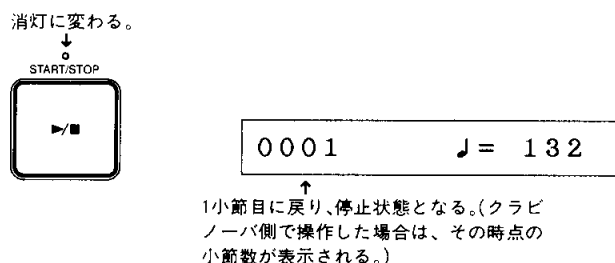


#### ⑤再生の終了

指定した曲が最後まで再生されると自動的に停止状態になりますが、以下の方法で再生を途中で終了させることもできます。

- 本機のスタート▶/ストップ■ボタンを押す。
- クラビノーバのストップボタンを押す。(上図のようにCVP-30等のクラビノーバを接続した場合)  
クラビノーバ側で操作した場合は停止状態にならずに、ボタンを押したところで一時停止状態になります。(この状態で、クラビノーバ側でスタートの操作を行うと、最初の発音が遅れたり、リズムとメロディーがずれることがあります。)

再生を終了させると、次のようになります。



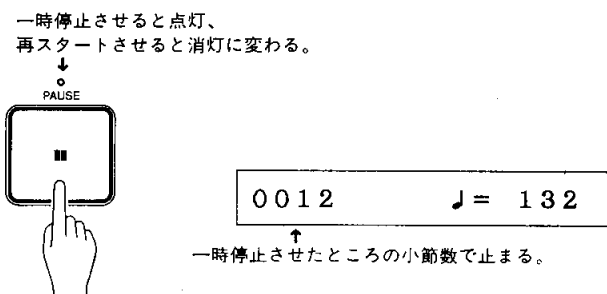
※本機の同時発音数を越えた瞬間は、鳴らない音があります。リズムが8音、その他が合計16音の範囲で同時発音可能です。

## 補助機能

再生に関する様々な機能を紹介します。

### 再生一時停止

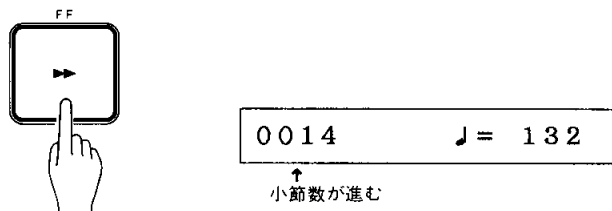
ポーズ■ボタンを押すことにより、再生の途中で一時停止させることができます。もう一度押すと、一時停止させたところから再生が続行されます。



※本ページのようにCVP-30等のクラビノーバを接続した場合は、クラビノーバのストップボタンまたはイントロ/エンディングボタンを押して、一時停止させることもできます。この場合の再スタートは、本機のプレイ▶/ストップ■ボタンを押すことにより可能です。

### 早送り

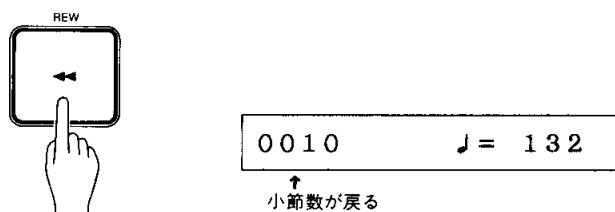
早送り▶▶ボタンを押している間、早送りさせることができます。再生中に押した場合は、早送り状態で再生音が聞こえます。ボタンを離すと、離れたところから本来の再生に戻ります。



※停止状態または一時停止状態で押すと、1小節ずつ進みます。進めたところから再生できます。

### 戻し

戻し◀◀ボタンを押している間、曲を戻すことができます。再生中に押した場合も再生音は聞こえませんが、ボタンを離すと、離れたところから本来の再生に戻ります。



※停止状態または一時停止状態で押すと、1小節ずつ戻ります。戻したところから再生できます。

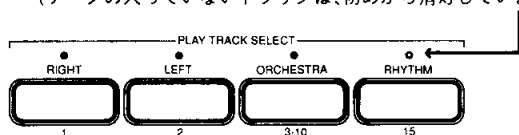
### マイナスワン演奏

自分で弾きたいパートをオフにする(鳴らないようにする)ことができます。

#### プレイトラックセレクトボタンでオフにする場合：

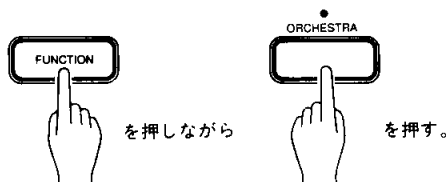
オフにしたいパート(トラック)のボタンを押します。なお、3~10トラックについてははまとめてオフになります。

オフにしたパート(トラック)のランプは消灯する。  
(データの入っていないトラックは、初めから消灯しています。)

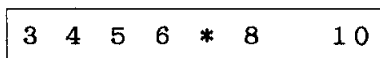


#### 3~10トラックを一斉でなく、個別にオフにする場合：

①ファンクションボタンを押しながら3-10ボタンを押して、3~10トラックのオン/オフ表示にします。



いずれかのトラックに、カーソルを意味する+が点滅表示される。



各トラックのオン/オフ表示(数字が表示されているトラックがオン、つまり鳴る状態。表示されていないトラックがオフ、つまり鳴らない状態。また、演奏が記録されていないトラックは\*が表示される。)

②オン/オフ指定するトラックを指定します。戻し◀または早送り▶ボタンを押して、カーソルを移動させてください。

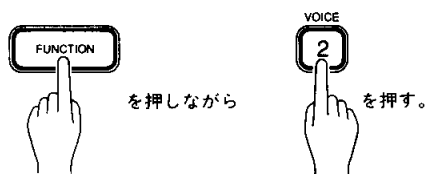
③ノー◀または▶イェスボタンを押して、オン/オフを指定します。ボタンを押すたびにオン/オフが繰り返されます。

※停止中だけでなく、再生中や一時停止中にも変更できます。記録はされません。

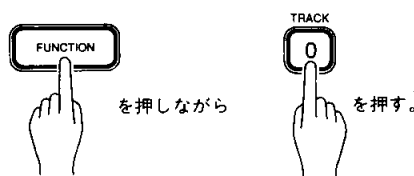
### 音色変更

音色を変えて再生させることができます。

①ファンクションボタンを押しながらボイスボタンを押して、ボイス表示にします。



②ファンクションボタンを押しながらトラックボタンを押して、音色変更するトラックの番号を表示させます。



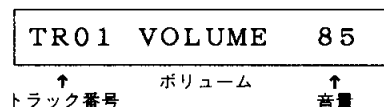
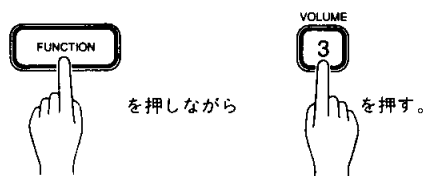
③テンキーで直接番号を入力するか、またはノー◀、▶イェスボタンを押して、音色の番号を変更します。本機内蔵の音源で鳴らす場合の音色(音色番号と音色名の対応)については、本機のパネルに印刷されています。(読み方は、33ページの“音色一覧表”をご覧ください。)

※停止中だけでなく、再生中や一時停止中にも変更できます。記録はされません。

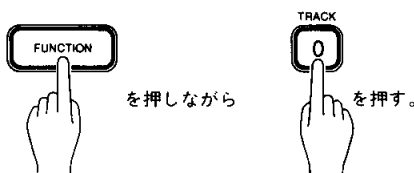
### 音量変更

音量を変えて再生させることができます。

①ファンクションボタンを押しながらボリュームボタンを押して、ボリューム表示にします。



②ファンクションボタンを押しながらトラックボタンを押して、音量変更するトラックの番号を表示させます。



③テンキーで直接値を入力するか、またはノー◀、▶イエスポタンを押して、音量を変更します。

※停止中だけでなく、再生中や一時停止中にも変更できます。記録はされません。

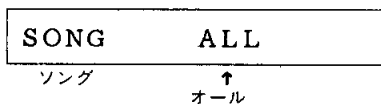
### 全曲再生

指定した曲の再生が終了と停止状態になりますが、ディスク内の全ての曲を通して繰り返し再生させることもできます。

- 曲番号1から順に再生されます。
- 欠番は飛ばされます。たとえば曲番号3、4が欠番の場合は、曲番号2の再生が終了と、曲番号5の再生になります。

①曲番号表示になっていることを確認します。なっていない場合は、ソングセレクトボタンを押します。

②テンキーの0を押すか、またはノー◀ボタンを押し続けて、次の表示にします。



③再生をスタートさせます。

※停止中にのみ設定可能です。

※最後の曲まで再生されると、再び1曲めから再生されます。  
※クラビノーバ(例：CVP-30)側のストップボタンはきかなくなりません。

### リバーブ

本機の音源で鳴らす音全体にリバーブをかけることができます。リバーブをかけると、音の響きが豊かになります。

全て消灯している時は  
リバーブ・オフの状態



リバーブボタンを押すたびに、次の順に切り替わります。

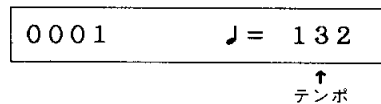
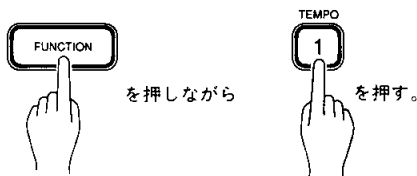
- オフ：リバーブはかかりません。
- ↓
- ルーム：響きやすい部屋で演奏しているような音になります。
- ↓
- ホール1：小さめのコンサートホールで演奏しているような音になります。
- ↓
- ホール2：大きめのコンサートホールで演奏しているような音になります。
- ↓
- コズミック：こたまのような響き加わります。

### テンポ変更

曲のテンポを変えて再生させることができます。

①テンポ表示になっていることを確認します。なっていない場合は、ファンクションボタンを押しながら、テンポボタンを押して、テンポ表示にします。

テンポ表示になっていない時は、



②テンキーで直接値を入力するか、またはノー◀、▶イエスポタンを押して、テンポを変更します。

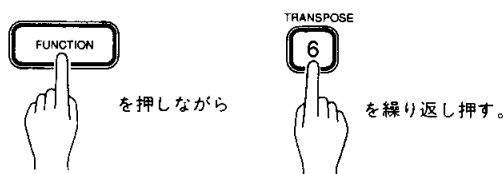
※ノー◀ボタンと▶イエスポタンを同時に押すと、記録された時のテンポに戻ります。

※停止中だけでなく、再生中や一時停止中にも変更できます。

### 移調

音程を変えて(移調して)再生させることができます。

①アウト・トランスポーズの表示になるまで、ファンクションボタンを押しながらトランスポーズボタンを繰り返し押しします。



②ノー◀または▶イエスポタンを押して、アウト・トランスポーズの値(移調量)を指定します。

記録した音程に対して-6半音~6半音の範囲で移調できます。たとえば-1にすると、記録した演奏より半音低い音程で再生されるようになります。(リズムトラック15は移調されません。)

※ノー◀ボタンと▶イエスポタンを同時に押すと、記録された時の音程(トランスポーズ 0)に戻ります。

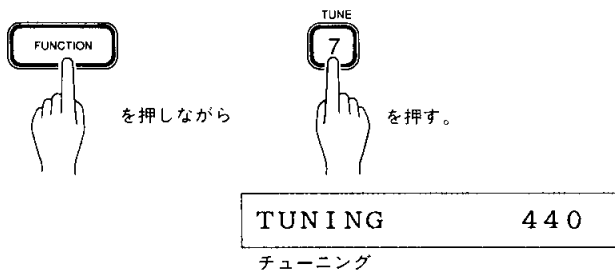
※停止中だけでなく、再生中や一時停止中にも移調できます。

※アウト・トランスポーズの値は、曲番号を変えても保持されます。

### チューニング

他の機器(楽器や音源ユニット)と音程を合わせることができます。つまり、微妙に音程が異なる場合は、この機能を使って他の機器と音の高さを合わせることができます。

- ①ファンクションボタンを押しながらチューンボタンを押して、チューニングの表示にします。



- ②ノー◀または▶イェスボタンを押して、チューニングの値(A3の高さ)を指定します。

標準値のA3=440Hzに対して、約-50セントのA3=427Hzから約+50セントのA3=452Hzの範囲で指定できます。実際に他の機器と同時に音を出しながら合わせてください。(リズムトラック15の音程は変わりません。)

※ノー◀ボタンと▶イェスボタンを同時に押すと、標準値の440Hzに戻ります。

※停止中だけでなく、再生中や一時停止中にも移調できます。

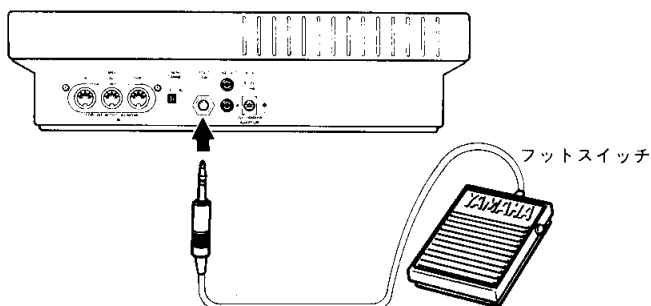
### 足元でのスタート/ポーズ

別売りのフットスイッチFC-4またはFC-5を接続することにより、再生のスタートおよび再生一時停止を足元で操作することができます。

これにより、本機と離れた所でこの操作を行ったり、記録済みの音に合わせて演奏する時に演奏に集中しやすくなります。

停止中に踏むと再生、再生中に踏むと再生一時停止、再生一時停止中に踏むと一時停止させたところからの再スタートになります。

※記録時には、記録をスタートさせることはできますが、記録を一時停止させることはできません。



### フレーズリピート再生

自分で繰り返し(リピート)させたい区間を指定したうえで、再生させることができます。再生に合わせて苦手な区間をパート練習する時に便利です。

- フレーズリピート再生させると、停止させるまで何回でも繰り返されます。
- 繰り返しの初めや終わりをポイント指定します。
- ポイント指定時には、初めと終わりの操作の区別はありません。
- ポイント指定は最高40箇所まで可能です。繰り返し再生させる時点で、繰り返しの初めを指定します。(次のポイントが自動的に終わりのポイントになります。)

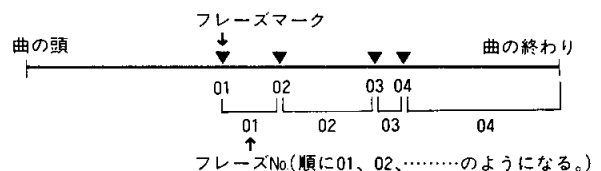
#### [ポイント指定の方法(フレーズマークの付け方)]

- ①再生中、または小節指定による頭出し後に、ファンクションボタンを押しながらフレーズリピートボタンを押して、繰り返しの初めのポイントを指定します。指定したポイントにフレーズマークが付きます。



- ②同様に、終わりのポイントや他の区間のポイントを指定します。

指定の例)



※フレーズマークを付けた後、別の曲を選んだり電源を切ったりすると、フレーズマークは消えます。

※ディスクオーケストラコレクションのディスクの曲には、あらかじめフレーズマークが付いているものがあります。これらのフレーズマークを対象として、フレーズリピートの機能を働かせることもできます。なお、自分でフレーズマークを付けた場合は、あらかじめ付けられていたフレーズマークは一時的に消えますが、別の曲を選んだり、電源を切ったりすると戻ります。

#### [繰り返し再生の方法]

- ①停止状態にして、フレーズリピートボタンを押します。するとフレーズリピート表示になります。



②繰り返しの初めにするポイント(フレーズNo.)を、ノー◀または▶イエスボタンで指定します。(指定したポイントから次のポイントまでが繰り返し区間になります。)

③スタート▶/ストップボタンを押して、指定した区間の繰り返し再生をスタートさせます。

#### [繰り返し再生の中止]

①スタート▶/ストップボタンを押すと、繰り返し再生が停止すると共に、次の表示になります。

PHRASE\_REP. 02  
↑  
繰り返し初めのポイント(フレーズNo.)

②繰り返し再生の状態を解除する場合は、フレーズボタンを押します。すると、フレーズリピートボタンのランプが消灯し、解除されます。

#### [フレーズマークの消し方]

①停止状態にします。(フレーズリピートボタンのランプを消灯させます。)

②ファンクションボタンを押しながらフレーズリピートボタンを3秒以上押します。すると次の表示になります。

MARK ERASE OK?  
マーク イレース オーケー?

③▶イエスボタンを押します。すると、その曲中の全てのフレーズマークが消えます。  
ノー◀ボタンを押した時は消えません。

#### 足元でのフレーズ切替

フットスイッチ端子に別売りのフットスイッチ(FC-4またはFC-5)を接続した場合のフットスイッチの機能を変更できます。

機能を変更しなければ足元でスタートおよび再生一時停止の操作ができますが、機能を変更することにより、ネクストフレーズの操作が可能です。ネクストフレーズ機能は、再生中に踏むと再生一時停止状態になり、もう一度踏むと次のフレーズマークのところから再生が再開される機能です。

この機能により、再生を一時停止(ブレーク)させたうえで、次のフレーズまで自由な長さのソロ演奏が可能です。

#### [機能の切替方法]

①ファンクションボタンを押しながらフットスイッチを踏みます。すると次の表示になりますので、ファンクションボタンは離さずに、②の操作を行います。

Foot\_SW ST/Pause

フット スイッチ スタート/ポーズ  
(フットスイッチがスタート/再生一時停止の機能になっていることを意味する表示)

②ファンクションボタンを押したまま、もう一度フットスイッチを踏みます。すると機能が切り替わって、次の表示になります。

Foot\_SW Next\_Phr

フット スイッチ ネクスト フレーズ  
(フットスイッチがネクストフレーズ機能に切り替わったことを意味する表示)

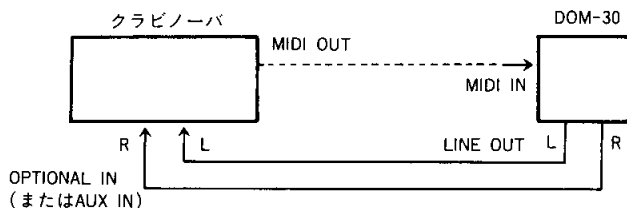
※フレーズリピートボタンがオンになっていると、この機能は働きません。

#### 全トラックを本機の音源で鳴らす

クラビノーバの音源を使わずに、全トラックを本機の音源だけで鳴らす場合は、本機リアパネルのセンドチャンネルスイッチをオール側にします。

また、この条件でマイナスワン演奏する場合には、さらに次のようにしてください。

①次のように接続します。



※クラビノーバにオプション・インまたはAUXイン端子がない場合には、付属のピンプラグコードを、キーボードアンプまたはオーディオシステムに接続してください。

②クラビノーバをローカルコントロール・オフにします。

③自分で弾きたいトラックを、プレイトラック・オフにします。

④マイナスワン演奏する音の音色または音量を決めます。

④-1: ファンクションボタンを押しながらトラックボタンを押して、トラック表示を、③でオフにしたトラックに合わせます。

④-2: 音色や音量を変更します。

# 5.演奏を記録してみよう

別売りの記録・再生用ディスクを用意して、それに自分の演奏を記録してみましょう。

※再生専用ディスク(付属のディスク、ディスクオーケストラコレクションのディスク、ヤマハ・ピアノプレーヤ用のディスク)には、記録できません。

## ディスクフォーマットの方法(フォーマット)

購入した記録・再生用のフロッピーディスクはそのままでは使えません。

フォーマット(初期化)といって、データの整理棚を作る操作をして初めて演奏を記録できるようになります。

ただし、すでに使用中で演奏情報が記録されているフロッピーディスクをフォーマットしてしまわないよう十分注意してください。(フォーマットを実行すると、それまで記録されていた内容は全て消えてしまいます。)

※再生専用ディスク(付属のディスク、ディスクオーケストラコレクションのディスク、ヤマハ・ピアノプレーヤ用のディスク)は、フォーマットできません。

①フォーマットするディスクをディスク装着口に差し込みます。

※フォーマットしていないディスクを挿入すると、次のような表示になります。

Unformat DISK

アンフォーマット ディスク

②“ディスクフォーマット”の表示になるまで、ファンクションボタンを押しながらディスクボタンを繰り返し押します。表示が出たら両方のボタンを離します。



を押しながら



を繰り返し押す。

DISK FORMAT

ディスク フォーマット

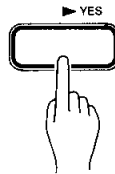
指を離すと、表示が変わります。

FORMAT START ?

フォーマット スタート?

この時点でフォーマットを中止したい時は、ファンクションボタンまたはノー◀ボタンを押します。

③▶イエスボタンを押します。



PUSH START SW

プッシュ スタート スイッチ

この時点でフォーマットを中止したい時は、ファンクションボタンを押します。

④スタート▶/ストップ■ボタンを押して、フォーマットを実行します。



FORMAT 80

フォーマット

数値が1ずつ小さくなっていきます。

⑤フォーマットが終了すると……

曲番号表示に戻ります。

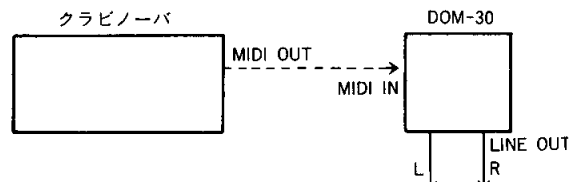
SONG\_NO 1

例：曲番号1の場合

## 準備

ここでの説明は、全てのトラックを本機の音源で鳴らすことを前提にしています。

①次のように接続します。



クラビノーバのオプションライン、AUXイン端子、またはキーボードアンプ、オーディオシステムへ

②クラビノーバと本機の電源を入れます。

③本機リアパネルのセンドチャンネルスイッチをオール側にすると共に、クラビノーバをローカルコントロール・オフにします。



## 記録

ここでは初歩的な例として、1つのトラックにのみ演奏を記録する方法を紹介します。

なお、トラック1~10および15(またはトラック1~16)にパート別に記録する方法(多重録音)については、後で紹介します。

### ①ディスクの装着

フォーマット済みのフロッピーディスクを、ディスク装着口に差し込みます。

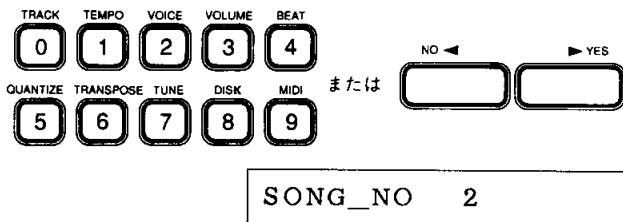
### ②曲番号の指定

記録先の曲番号を指定します。1~60の範囲で指定できます。

②-1: 曲番号を指定できる状態になっていることを確認します。



②-2: テンキーまたはノー◀、▶イエスボタンを押して、記録する先の曲番号を指定します。

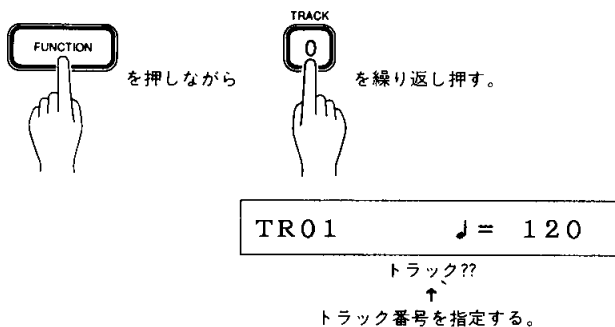


### ③音色および音量の指定

記録の前に音色や音量を指定して、実際に指定するものでいいか確かめてみましょう。

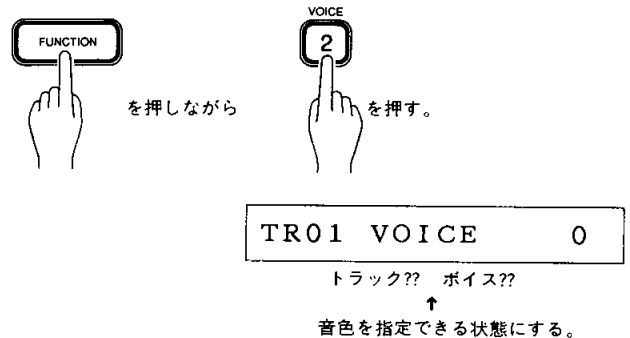
③-1: 記録先のトラックを呼び出します。

これから記録する先のトラック番号が表示されるまで、ファンクションボタンを押しながらトラックボタンを繰り返し押します。必ず記録先のトラック番号を指定してください。

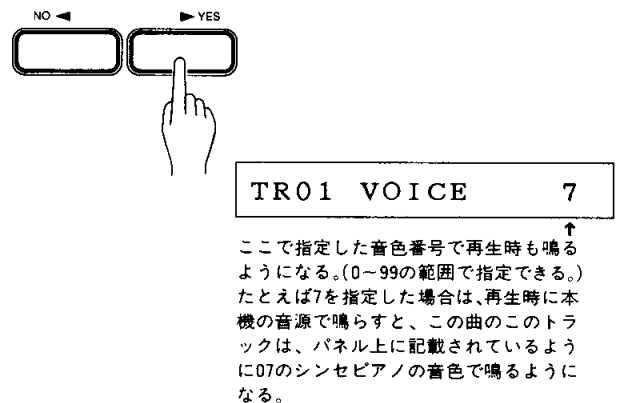


③-2: 音色を指定します。

ファンクションボタンを押しながらボイスボタンを押して、音色を指定できる状態にします。



テンキーまたはノー◀、▶イエスボタンを押して、音色番号を指定します。



※実際に、その音色でいいかどうか、クラビノーバを弾いて確かめてください。変更したければ、上記の方法で何度でも変更できます。

※音色は、記録の最中や記録後に変更することもできます。

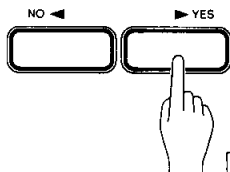
※クラビノーバ側で音色指定することもできます。

③-3: そのトラックの音量を指定します。

ファンクションボタンを押しながらボリュームボタンを押して、音量を指定できる状態にします。



テンキーまたはノー◀、▶イエスポタンを押して、音量を指定します。



TR01 VOLUME 80

↑  
0~100の範囲で指定できる。たとえば80にすると、80%の音量で再生されるようになる。

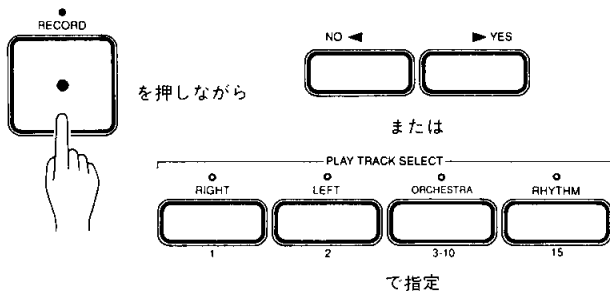
※実際に、その音量でいいかどうか、クラビノーバを弾いて確かめてください。変更したければ、上記の方法で何度でも変更できます。

※音量は、記録の最中や記録後に変更することもできます。

#### ④記録待機状態に

レコード●ボタンを押しながらノー◀または▶イエスポタンを押して、記録先のトラック番号を表示させます。

※レコード●ボタンを押しながらプレイトラックセレクトボタンを押すことでも、トラック指定が可能です。たとえば、トラック2を表示させる場合は2(レフト)のボタンを組み合わせる押し、トラック5を表示させる場合は3-10(オーケストラ)のボタンを組み合わせる表示がトラック5になるまで繰り返し押します。



612Kbyte FREE

??キロバイト フリー

↑  
レコード●ボタンだけを押している間は、このように記憶残量表示になる。残量が少ない時は、新しいディスクに替える必要があります。

REC TRACK 01

レック トラック ?? ↑  
記録先のトラック番号を表示させる。

※この操作を終えると、自動的に記録待機状態になります。記録待機状態とは、スタートさせれば記録が開始される状態をいいます。

TR01 J = 120

トラック?? ↑

記録待機状態では、スタート▶/ストップ■ボタンとプレイトラックセレクトボタンのランプが点滅し、テンポを変更できる。

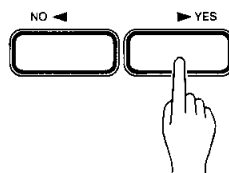
※記録待機状態を解除する場合は、レコード●ボタンを押してください。レコード●ボタンとスタート▶/ストップ■ボタン上のランプが消灯して、停止状態に戻ります。

記録済みの曲番号を指定してしまった場合でもこの操作をすれば、記録されている曲を消さないで済みます。(“アー・ユー・シュアー?”と表示されることがありますが、その時もノー◀ボタンを押せばOKです。)

#### ⑤必要に応じてテンポ、拍子の指定を行う

##### ⑤-1: 曲のテンポを指定します。

ノー◀または▶イエスポタンを押して、テンポを指定します。



TR01 J = 132

↑  
J = 32~280の範囲で指定できる。

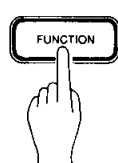
※テンポを耳で確認したい時には、メトロノームボタンを押してください。すぐに1拍ごとにメトロノーム音が鳴りだします。もう一度押すと、音が消えます。なお、記録中にメトロノーム音を鳴らしても、メトロノーム音まで記録されてしまうことはありません。

また、メトロノームは記録時だけでなく、練習の際に単独に使用したり、再生中に使用することもできます。

※テンポは、記録後に変更することもできます。

##### ⑤-2: 曲の拍子を指定します。

ファンクションボタンを押しながらビートボタンを押して、拍子を指定できる状態にします。



を押しながら



を押す。

BEAT 4/4

ビート ??

↑  
拍子を指定できる状態にする。



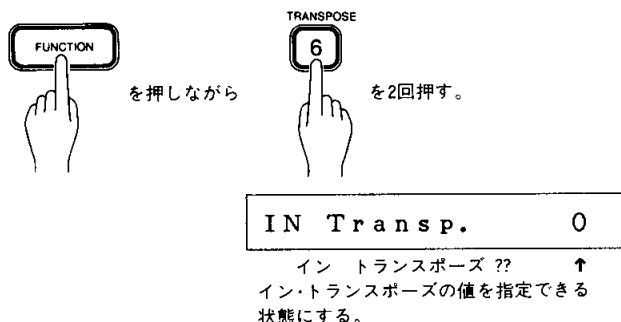
## 補助機能

記録時や記録後の補助機能をまとめて紹介します。

### 移調させながら記録

必要に応じて演奏を移調させながら記録することができます。この機能を使う場合は、記録の操作をする前に設定します。

- ①ファンクションボタンを押しながらトランスポーズボタンを2回押して、イン・トランスポーズの値(移調量)を指定できる状態にします。



- ②ノー◀または▶イエスポタンを押して、イン・トランスポーズの値を指定します。  
-6~6の範囲で指定でき、たとえば-1にすると、弾いた鍵盤に対して本機の音は半音低い音になり、記録されます。他のパートはそのままのキーで再生し、弾きにくいパートだけ移調して弾きたい時便利です。  
リズムトラック15は移調されません。

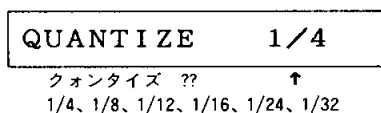
- ③記録します。

### クオンタイズ

必要に応じて、クオンタイズをかけることができます。クオンタイズは、記録したトラックの音符のタイミングのズレを修正する機能です。

※大幅にずれている場合は、丁度いい位置に修正されないことがあります。

- ①クオンタイズをかける曲を指定します。
- ②ファンクションボタンを押しながらクオンタイズボタンを押して、クオンタイズの表示にします。

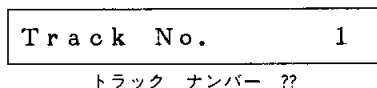


- ③ノー◀または▶イエスポタンを押して、修正の基準にする音符の長さを指定します。通常は、修正するトラックに含まれている最短音符の長さに合わせます。

1/4 : 4分、1/8 : 8分、1/12 : 3連8分、1/16 : 16分、  
1/24 : 3連16分、1/32 : 32分

※たとえば最短音符が16分音符の場合は1/16を指定します。たとえば1/32にすると、クオンタイズをかけても少し修正されるだけで、1/4にすると、逆に大幅に音符が動きすぎて違った感じの曲になってしまいます。

- ④スタート▶/ストップ■ボタンを押します。すると、クオンタイズをかけるトラックを質問してきます。



- ⑤ノー◀または▶イエスポタンを押して、クオンタイズをかけるトラックを指定します。  
※クオンタイズをかけた後、かける前の状態に戻すことはできません。ここまでの操作ならば、ファンクションボタンを押して、クオンタイズを取り消すことができます。
- ⑥スタート▶/ストップ■ボタンを押して、クオンタイズを実行させます。

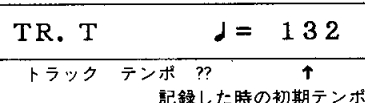
### 曲中のテンポ変更

必要に応じて、記録した曲の曲中のテンポを変更できます。

- ①テンポ変更する曲を指定します。
- ②レック・テンポ・チェンジの表示になるまで、レコード●ボタンを押しながらノー◀、▶イエスポタン(またはプレイトラックセレクトボタンの3-10)を繰り返し押します。(記録待機状態になります。)



レック・テンポ・チェンジの表示にしてボタンを離すと、次のような表示に変わります。



- ③ノー◀または▶イエスポタンを押して、初期テンポをJ = 32~280の範囲で変更します。
- ④スタート▶/ストップ■ボタンを押すなどして、曲をスタートさせます。

記録状態になり記録済みの演奏が鳴りますので、曲の進行にそって、実際にテンポ値を変更してください。変更する時のスピードも含めて記録されます。(リタルダンドやアツチェレランドが可能)

- ⑤テンポ変更するところまで鳴らしてください。  
もし途中でテンポ変更を終了するなら、スタート▶/ストップ■ボタンを押します。

- ⑥変更したものを保存するか聞いてきますので、保存する(差し替える)場合は▶イエスボタン、保存しない(変更前の状態に戻す)場合はノー◀ボタンを押します。  
イエスを選ぶと、数秒間で保存作業が行われ、停止状態に戻ります。

### 初期テンポ、初期音色、初期音量の変更

必要に応じて、記録済みの曲のテンポや、トラックの音色や音量を変更することができます。

- ①変更する曲を指定します。
- ②レコード●ボタンを押しながら、ノー◀または▶イエスボタン(またはプレトラックセレクトボタン)を押して、音色または音量変更するトラックを指定します。(指定すると記録待機状態になります。)  
なお、初期テンポを変更する場合はトラックの指定は関係ありませんが、記録待機状態にするため、同じ操作をしてください。  
※記録スタートの状態にはしないでください。記録済みの演奏が消えてしまうことになります。
- ③ファンクションボタンを押しながら、該当するボタン(テンポ、ボイス、ボリュームボタンのいずれか)を押してください。  
たとえば音量変更する場合は、ボリュームボタンを組み合わせ合わせて押して音量(ボリューム)表示にします。

初期テンポ表示

TR01          ♩ = 132

初期音色表示

TR01 VOICE      3

初期音量表示

TR01 VOLUME 80

- ④ノー◀または▶イエスボタンを押して、初期設定を変更します。

- ⑤レコード●ボタンを押して、停止状態にします。

- ⑥変更した設定を保存するか聞いてきますので、保存する(差し替える)場合は▶イエスボタン、保存しない(変更前の状態に戻す)場合はノー◀ボタンを押します。  
イエスを選ぶと、数秒間で保存作業が行われ、停止状態に戻ります。

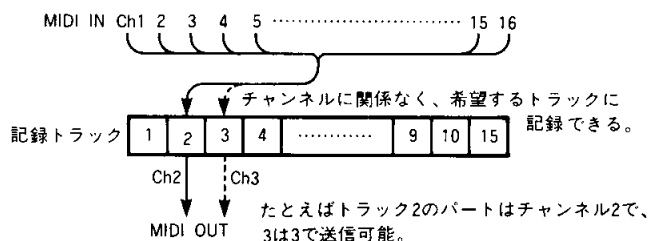
## 多重録音のモード

多重録音の方法を紹介する前に、多重録音のモード(MIDI受信モード、MIDIチャンネル、トラックの関係)を紹介します。これは少々難しい内容ですが、この内容を理解しておく取り扱いが楽になります。なお、多重録音のモードは大きく分けて4種類あります。

※MIDI受信モードとMIDIチャンネルについては、MIDIセッティングの項(→25ページ)もご覧ください。

### 1.「受信モード=オムニオン」にした場合

MIDIチャンネルを気にせずに、気軽に扱えるモードです。



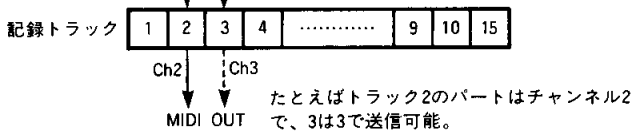
- どのチャンネルの演奏データでも(クラビノーバのMIDI送信チャンネル、本機のMIDI受信チャンネルがいくつになっていたとしても)、記録できます。
- 電源を入れた時には、必ずこの状態になっています。
- 記録スタートする前に、記録先のトラック番号を指定してください。
- トラック1~10およびトラック15に順々に記録できます。つまり最高で11パート記録できます。
- 再生の際、各トラックの演奏データは記録時の各音色でそれぞれ再生されます。
- 再生の際、各トラックの演奏データは各トラック番号と同じ番号のチャンネルでMIDI送信可能です。たとえば、トラック2の演奏データはチャンネル2で、トラック3の演奏データはチャンネル3で送信されます。

### 2.「受信モード=オムニオフ」にした場合

MIDIチャンネルを指定して記録するモードです。複数のチャンネルの演奏データが送られてきてしまう場合でも、それらの中から必要なチャンネルの情報のみ選び抜いて記録させることができます。

MIDI IN Ch1 2 3 4 5 ..... 15 16

希望するチャンネルのデータのみ、  
希望するトラックに記録できる。



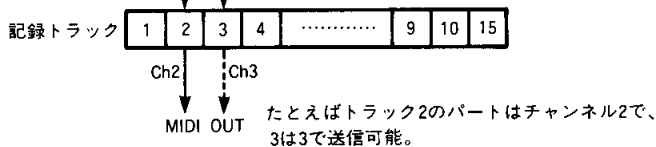
- 指定したチャンネルの演奏データのみ、受信できる状態になります。
- 記録の前に、クラビノーバのMIDI送信チャンネルと本機のMIDI受信チャンネルを一致させてください。
- 記録スタートする前に、記録先のトラック番号を指定してください。
- トラック1～10およびトラック15に順々に記録できます。つまり最高で11パート記録できます。
- 再生の際、各トラックの演奏データは記録時の各音色でそれぞれ再生されます。
- 再生の際、各トラックの演奏データは各トラック番号と同じ番号のチャンネルでMIDI送信可能です。たとえば、トラック2の演奏データはチャンネル2で、トラック3の演奏データはチャンネル3で送信されます。ただし、クラビノーバがもつマルチティンバーモード時の同時受信チャンネルの数によっては、9、10、15トラックの演奏が鳴らないことがあります。

### 3. 「受信モード=マルチ」にした場合

このモードにした時は、クラビノーバの送信チャンネルを、記録するトラックの番号と一致させる必要があります。

MIDI IN Ch1 2 3 4 ..... 9 10 15

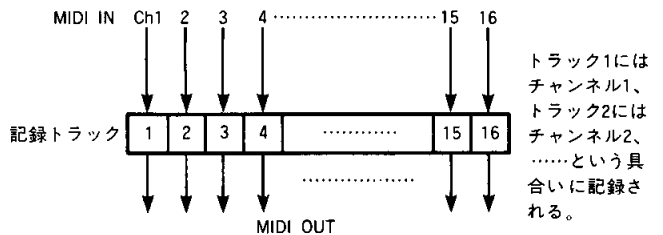
指定したトラックと同じ番号のチャンネルの  
データのみ、記録できる。



- 指定したトラック番号と同じ番号のチャンネルの演奏データのみ、受信できる状態になります。
- 記録スタートする前に、記録先のトラック番号とクラビノーバのMIDI送信チャンネル番号を一致させてください。
- トラック1～10およびトラック15に記録できます。つまり最高で11パート記録できます。
- 再生の際、各トラックの演奏データは記録時の各音色でそれぞれ再生されます。
- 再生の際、各トラックの演奏データは各トラック番号と同じ番号のチャンネルでMIDI送信可能です。たとえば、トラック2の演奏データはチャンネル2で、トラック3の演奏データはチャンネル3で送信されます。

### 4. 「記録(レック)トラック=マルチ」にした場合

複数のパート(チャンネル)の演奏を一度に記録するモードです。



たとえばトラック2のパートはチャンネル2で、3は3で送信可能。

- この場合のみ11個のトラックでなく、1～16(16個)のトラックに記録できます。ただし、一斉に記録することのみ可能です。
- 複数のパートを別々のチャンネルで送信する機器に対応します。たとえばクラビノーバの場合なら、スプリット送信モード・オンに対応します。
- 各トラック番号と同じ番号のチャンネルの演奏データを、それぞれ受信できます。
- 再生の際、各トラックの演奏データは記録時の各音色でそれぞれ再生されます。
- 再生の際、各トラックの演奏データは各トラック番号と同じ番号のチャンネルでMIDI送信可能です。たとえば、トラック2の演奏データはチャンネル2で、トラック3の演奏データはチャンネル3で送信されます。

## 多重録音の方法

1つのトラックだけでなく、複数のトラックを使って複数のパートを記録(多重録音)できます。

多重録音は、もともとレコード制作の世界から生まれたテクニックです。まず最初にリズムを決めて1つのトラックにリズムコントロールのデータを記録(リズムを含める場合)。次にそれを再生させながら、別のトラックに別のパートを記録。さらに別のトラックにも……。このようにして、複数のパートを記録していきます。そして最後に全てのパートを一斉に再生できますから、あたかも大勢で同時に演奏しているように聞こえます。

ここでは前項の“多重録音のモード”の項と同じように、4つに分けて説明します。

- トラック15はリズム専用のトラックです。記録の際、たとえばクラビノーバ側で音色指定しても、再生の時にはそれを無視して打楽器の音で鳴ります。
- トラック15だけは、何回かに分けて記録することができます。(少しずつ打楽器の音を重ねていくことができます。)つまり再記録しても、他のトラックのように前の演奏が消えてしまうことはなく、前の演奏に新しい演奏が重なります。(詳しくは21ページ参照)







- ②レコード●ボタンを押しながら、プレイトラックセレクトボタンの15(またはノー◀、▶イエスボタン)を押して、トラック15への記録待機状態にします。

REC TRACK RHYTHM

↑  
この表示にする。

操作を終えると記録待機状態になり、次のように表示されます。

TR. R      ♩ = 120

↑  
リズムトラックへの記録待機状態を意味する。

※すでにトラック15にリズムが記録されていれば、操作を終えた時次のように表示されます。

OVER DUBBING ?

オーバー ダビング ?  
(オーバーダビングしますかという確認の意味の表示)

- ③オーバーダビングする場合は▶イエスボタンを、オーバーダビングしない場合はノー◀ボタンを押してください。
- ④記録を開始します。
- ⑤記録を終了します。
- ⑥▶イエスボタンを押して保存します。  
保存すると、あらかじめ記録されていたリズム音に新しい音が重なって保存されます。保存しない場合はノー◀ボタンを押してください。
- ⑦もっと音を加えたい場合は、②～⑥の操作を繰り返してください。

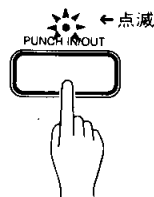
## パンチイン/パンチアウト

「記録を行った時に、ある区間だけ演奏を失敗してしまった。」という場合には、パンチイン/パンチアウトの機能が便利です。パンチイン/パンチアウト機能を使うことにより、失敗した区間だけ演奏しなおして差し替えることができます。  
●指定したトラックに対してパンチイン/パンチアウトが可能です。

[パンチイン/パンチアウトポイントの指定]

- ①パンチイン/パンチアウトを行う曲を指定します。
- ②再生状態、または再生一時停止状態での小節指定による頭出し後に、パンチイン/パンチアウトボタンを押して、パンチイン(録りなおしの初め)のポイントに指定します。

するとパンチイン/パンチアウトボタンのランプが点滅します。



- ③曲を進めてパンチイン/パンチアウトボタンを押して、パンチアウト(録りなおしの終わり)のポイントを指定します。  
するとパンチイン/パンチアウトボタンのランプが点灯に変わります。  
※パンチアウトポイントを指定せずに曲の終わりまで再生させた場合は、自動的に点灯に変わります。そして、その場合は記録時に曲の長さをのばすことができます。

[パンチイン/パンチアウトの実行]

- ①パンチイン/パンチアウトボタンのランプが点灯した状態のまま、パンチイン/パンチアウトを行うトラックを指定します。  
レコード●ボタンを押しながら指定してください。  
(記録待機状態になります。)
- ②スタート▶/ストップ■ボタンを押してスタートさせます。再生状態になりますので、パンチインの瞬間まで練習していてもかまいません。
- ③パンチインのところまで再生されると、パンチイン/パンチアウトボタンのランプが点滅状態に変わり、自動的に記録状態になります。演奏しなおしてください。
- ④パンチアウトのところまで記録されるとランプが点灯状態に戻り、自動的に再生状態になります。  
※パンチアウトポイントを指定しなかった場合は、ストップボタンを押して記録を終了させてください。
- ⑤「録りなおしたが、また失敗した。」という場合には、ノー◀ボタンを押したうえで、再び①から操作をやりなおしてください。
- ⑥「録りなおしを成功した。」という場合には、▶イエスボタンを押して保存を実行します。
- ⑦他のトラックも同じ区間をとりなおしたい場合は、①～⑥の操作を繰り返してください。
- ⑧停止状態にしたうえでパンチイン/パンチアウトボタンを押します。  
すると、パンチイン/パンチアウトが解除されます。

# 6. 編集機能

ディスクの編集機能について、まとめて紹介します。

## ソングコピー

別売りの記録・再生用のディスクに記録済みの曲を、別の曲番にコピーすることができます。「記録済みの曲を少し変えたいが、記録済みのものはいじらずにおきたい。」という場合に便利です。

※再生専用ディスクからコピーしたり、再生専用ディスクにコピーすることはできません。

- ①ソングコピーの表示になるまで、ファンクションボタンを押しながらディスクボタンを繰り返し押します。

SONG COPY

ソング コピー

ソングコピーの表示が出たら、両方の指を離します。すると表示が変わります。

点減  
↓  
FROM 1 TO 1  
フロム ?? トゥ ??

- ②テンキーまたはノー◀、▶イエスボタンを押して、コピー元の曲番号を指定します。

↑ ↑  
FROM 3 TO 1  
コピー元 コピー先

- ③スタート▶/ストップ■ボタンを押します。  
するとコピー元の曲番号が確定されると共に、コピー先の曲番号を指定できる状態になります。(コピー先の曲番号が点滅に変わります。)
- ④テンキーまたはノー◀、▶イエスボタンを押して、コピー先の曲番号を指定します。  
なお、同一ディスク内でのコピーの場合には1(1番)から60(60番)の範囲内で、別のディスクへのコピーの場合には101(1番)から160(60番)の範囲内で指定してください。

- ⑤スタート▶/ストップ■ボタンを押すとコピーが実行されます。

なお、すでに記録済みの曲番号をコピー先に指定したときは、スタート▶/ストップ■ボタンを押した時は次のような確認の表示になりますので、実行する場合は▶イエスボタンを、取り消す場合はノー◀ボタンを押してください。(コピー先にデータが記憶されている場合、記憶されていたデータは失われます。)

ARE YOU SURE ?

アー ユー シュアー?

(本当にいいですかという確認の意味の表示)

コピー中は次の表示になります。

NOW Working

ナウ ワーキング

(作業実行中を意味する表示)

※コピーが終了すると、曲番号表示に戻ります。

※⑤の操作を行った時、別のディスクへのコピーの場合は“INSERT TARGET !”の表示になりますので、以下の操作を行ってください。

INSERT TARGET !

インサート ターゲット!

(コピー先のディスクを挿入してくださいという意味の表示)

コピー先のディスクを挿入します。すると次のような確認の表示になりますので、実行する場合はイエス▶ボタンを、取り消す場合はノー◀ボタンを押してください。

ARE YOU SURE ?

アー ユー シュアー?

(本当にいいですかという確認の意味の表示)

## ソングデリート

別売りの記録・再生用のディスクに記録済みの曲を、削除(デリート)することができます。記録済みの曲の中で必要がなくなった曲がある場合に、この機能をお使いください。  
※再生専用ディスクから削除することはできません。

- ①ソングデリートの表示になるまで、ファンクションボタンを押しながらディスクボタンを繰り返し押します。

SONG DELETE

ソング デリート

ソングデリートの表示が出たら、両方の指を離します。  
すると表示が変わります。

DELETE SONG \*\*

- ②テンキーまたはノー◀、▶イエスボタンを押して、削除する曲の番号を指定します。

DELETE SONG 11

↑  
削除する曲の番号(1~60)

- ③スタート▶/ストップ■ボタンを押します。

すると削除する曲の番号が確定されると共に、次のような確認の表示になりますので、実行する場合は▶イエスボタンを、取り消す場合はノー◀ボタンを押してください。

ARE YOU SURE ?

アー ユー シュア-?  
(本当にいいですかという確認の意味の表示)

※デリートが終了すると、曲番号表示に戻ります。

## ディスクコピー

別売りの記録・再生用のディスクに記録済みの曲を全て、別のディスクにコピーすることができます。ディスクはデリケートなものですから、大切なデータは2枚以上のディスクに保存しておくことをお勧めします。

※再生専用ディスクからコピーしたり、再生専用ディスクにコピーすることはできません。

- ①コピー元のディスクを挿入します。  
②ディスクコピーの表示になるまで、ファンクションボタンを押しながらディスクボタンを繰り返し押します。

DISK COPY

ディスクコピーの表示が出たら、両方の指を離します。  
するとコピー元からの読み込み中を意味する表示に変わります。

NOW READING...

ナウ リーディング……  
(読み込み中を意味する表示)

読み込みが終了すると、次の表示に変わります。

INSERT TARGET !

インサートターゲット!  
(コピー先のディスクを挿入してくださいという意味の表示)

- ③コピー先のディスクを挿入します。

すると次のような確認の表示になりますので、実行する場合はイエス▶ボタンを、取り消す場合はノー◀ボタンを押してください。(コピー先ディスクにデータが記憶されている場合、記憶されていたデータは失われます。)

ARE YOU SURE ?

アー ユー シュア-?  
(本当にいいですかという確認の意味の表示)

コピー中は次の表示になります。

NOW WRITING...

ナウ ライティング……  
(書き込み中を意味する表示)

※コピーが終了すると、曲番号表示に戻ります。

※コピー元のデータ量が多い場合には一度にコピーできない場合があります。その場合は、次のような表示になりますので、表示にしたがってディスクを入れ替えてください。なお、間違えて異なったディスクを入れてしまうと、“Change Disk!!”の表示が出ますので、正しいディスクと入れ替えてください。

INSERT SOURCE !

インサートソース!  
(コピー元のディスクを挿入してくださいという意味の表示)

# 7. MIDIセッティング

本機はMIDI機能(MIDI端子)をもっており、クラビノーバ等とMIDIデータでやりとりします。  
ここでは、MIDIに関する設定などを順に紹介します。

## MIDIとは?

MIDIという言葉はミュージカル・インストゥルメント・デジタル・インターフェイス(Musical Instrument Digital Interface)の頭文字をとったもので、“ミディ”と読みます。MIDIは、2台以上のMIDI製品を接続して、それらの間で、演奏にまつわる様々なコントロールをさせようという目的で考え出された世界統一規格です。つまりMIDI機能は、他のMIDI規格の製品と接続して初めて使い道があるわけです。

(MIDI製品には必ずMIDI端子があります。)

★MIDI接続には、MIDIケーブルが必要です。1本のMIDIケーブルが付属していますが、2本以上同時に必要な時は、別売のMIDIケーブルをお買い求めください。

MIDIケーブル (MIDI-15:15m) ¥3,000(税抜き価格)  
(MIDI-03:3m) ¥1,100(税抜き価格)

## MIDI機能の設定

### MIDI機能の設定方法

①MIDIに関する設定項目を呼び出す場合は、必要な項目の表示になるまで、ファンクションボタンを押しながらMIDIボタンを繰り返し押します。

②そのうえで実際に、**ノー**◀または**イエス**▶ボタンを押して設定値等を変えます。

※ファンクションボタンを押しながらMIDIボタンを押した後、MIDIボタンだけを離し、戻し◀◀ボタンまたは早送り▶▶ボタンを押すことでも、設定項目を指定できます。

※MIDI設定の状態から抜け出す時は、ファンクションボタンを押してください。

設定項目	設定値
1. 受信モードの設定  RCV_Mode On 受信(レシーブ)モード ↑ On, Off, Multi	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オン(オムニオン) どのチャンネルのメッセージでも受信し、指定したトラックに記録します。</li> <li>●オフ(オムニオフ) 次項の“MIDI受信チャンネルの設定”で指定したチャンネルのメッセージを受信し、指定したトラックに記録します。</li> <li>●マルチ 指定したトラックと同じ番号のチャンネルのメッセージを受信し、指定したトラックに記録します。</li> </ul>
2. MIDI受信チャンネルの設定  Receive_CH 1 受信(レシーブ)チャンネル ↑ 1-16	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1(チャンネル1) チャンネル1のメッセージを受信します。</li> <li>●16(チャンネル16) チャンネル16のメッセージを受信します。</li> </ul>
3. リズムキーナンバーのハイ/ロー切替  RHY. Key_No. HIGH リズム キー ナンバー ↑ HIGH(ハイ), LOW(ロー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ハイ 送られてくるキーナンバーのまま、内蔵リズム音を鳴らします。</li> <li>●ロー 送られてくるキーナンバーを2オクターブ上げて、内蔵リズム音を鳴らします。</li> </ul>
4. 内部クロック/外部クロックの切替  Sync_Clock INT 同期(シンク)クロック ↑ INT(内部クロック), EXT(外部クロック)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●INT(内部クロック) 本機のテンポは本機自身で設定できます。</li> <li>●EXT(外部クロック) 本機のテンポは外部(クラビノーバ等)で設定できます。</li> </ul>
5. リモート・インのオン/オフ切替  Remote_In On リモート イン ↑ On(オン), Off(オフ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オン リモート関係のメッセージを受信して反応します。</li> <li>●オフ リモート関係のメッセージは受信しません。</li> </ul>
6. リモート・アウトのオン/オフ切替  Remote_Out On リモート アウト ↑ On(オン), Off(オフ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オン リモート関係のメッセージを送信します。</li> <li>●オフ リモート関係のメッセージは送信しません。</li> </ul>
7. モジュレーション・フィルターのオン/オフ切替  Modulation On モジュレーション ↑ On(オン), Off(オフ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オン モジュレーション(モジュレーション・デプス)メッセージを送・受信可能です。</li> <li>●オフ モジュレーション(モジュレーション・デプス)メッセージを送・受信しません。</li> </ul>
8. ボリューム・フィルターのオン/オフ切替  Volume On ボリューム ↑ On(オン), Off(オフ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オン ボリューム・メッセージを送・受信可能です。</li> <li>●オフ ボリューム・メッセージを送・受信しません。</li> </ul>
9. エクスプレッション・フィルターのオン/オフ切替  Expression On エクスプレッション ↑ On(オン), Off(オフ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オン エクスプレッション・ペダル・メッセージを送・受信可能です。</li> <li>●オフ エクスプレッション・ペダル・メッセージを送・受信しません。</li> </ul>
10. ペダル・フィルターのオン/オフ切替  Pedal On ペダル ↑ On(オン), Off(オフ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オン ペダル関係のメッセージを送・受信可能です。</li> <li>●オフ ペダル関係のメッセージを送・受信しません。</li> </ul>

設定項目	設定値
11. その他のコントロール・チェンジ・フィルターのオン/オフ切替 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">Other_CNT    On</div> アザー コントロール    ↑ On(オン), Off(オフ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オン その他のコントロール・チェンジ・メッセージを送・受信可能です。</li> <li>●オフ その他のコントロール・チェンジ・メッセージを送・受信しません。</li> </ul>
12. チャンネル・モード・メッセージ・フィルターのオン/オフ切替 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">Mode_MSG    On</div> モード メッセージ    ↑ On(オン), Off(オフ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オン チャンネル・モード・メッセージを送・受信可能です。</li> <li>●オフ チャンネル・モード・メッセージを送・受信しません。</li> </ul>
13. プログラム・チェンジ・フィルターのオン/オフ切替 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">Program    On</div> プログラム    ↑ On(オン), Off(オフ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オン プログラム・チェンジ・メッセージを送・受信可能です。</li> <li>●オフ プログラム・チェンジ・メッセージを送・受信しません。</li> </ul>
14. ピッチベンド・フィルターのオン/オフ切替 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">Pitch_Bend    On</div> ピッチ ベンド    ↑ On(オン), Off(オフ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オン ピッチベンド・メッセージを送・受信可能です。</li> <li>●オフ ピッチベンド・メッセージを送・受信しません。</li> </ul>
15. アフタータッチ・フィルターの切替 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">A. Touch    Off</div> アフター タッチ    ↑ Off(オフ), Key(キー), Ch(チャンネル), Both(ボース)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オフ ポリフォニック・キープレッシャーおよびチャンネル・プレッシャーのメッセージを送・受信しません。</li> <li>●キー ポリフォニック・キープレッシャーのメッセージを送・受信可能です。</li> <li>●チャンネル チャンネル・プレッシャーのメッセージを送・受信可能です。</li> <li>●ボース ポリフォニック・キープレッシャーおよびチャンネル・プレッシャーのメッセージを送・受信可能です。</li> </ul>
16. エクスクルーシブ・フィルターのオン/オフ切替 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">Exclusive    On</div> エクスクルーシブ    ↑ On(オン), Off(オフ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オン システム・エクスクルーシブ・メッセージを送・受信可能です。</li> <li>●オフ システム・エクスクルーシブ・メッセージを送・受信しません。</li> </ul>
17. キー・ディレイ・タイムの設定 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">Key_Delay    0.0</div> キー デレイ    ↑ 0.0~500.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>●0.0(0.0ms) 遅らせない</li> <li>●500.0(500.0ms) 500.0ms(0.5秒)遅らせる。</li> </ul>
18. タッチ・チェンジのオン/オフ切替 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">Touch_change    Off</div> タッチ チェンジ    ↑ Off(オフ), On(オン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オフ 記録されているタッチ(ベロシティ)で出力します。</li> <li>●オン 再生専用ディスクの再生時に、ピアノパートのタッチ(ベロシティ)だけを大きくして出力。該当機種(後述)の場合、結果的に他のパートと音量バランスをとることができます。</li> </ul>

## 1. 受信モードの設定

記録時の受信モードを選択できます。

※パワースイッチをオンにした時は、必ずオン(オムニオン)になっています。

※記録済みのデータを鳴らす場合には、この設定が何になっても変わりません。

※詳しくは、18ページの“多重録音のモード”および19ページの“多重録音の方法”の項をご覧ください。

## 2. MIDI受信チャンネルの設定

受信モードの設定でオムニオフを指定した場合に、何チャンネルのメッセージを受信させるかを定めることができます。

※パワースイッチをオンにした時は、必ずチャンネル1になっています。

※MIDIメッセージの中には、チャンネルの信号が含まれていないメッセージもあります。このようなメッセージはチャンネル設定に関係なく受信できます。

※本機の送信チャンネルは記録時に決まります。

(記録したトラックの番号と同じになります。)

※記録済みのデータを鳴らす場合には、この設定が何になっても変わりません。

## 3. リズムキーナンバーのハイ/ロー切替

リズムトラック15に記録するためのリズムの演奏データを、クラビノーバから送られてくるキーナンバーのまま受けさせるか、2オクターブ分シフトさせて(上げて)受けさせるかを選択できます。クラビノーバが88鍵盤の場合はハイに、76鍵盤の場合はローにしてください。

※パワースイッチをオンにした時は、必ずハイになっています。

## 4. 内部クロック/外部クロックの切替

本機のテンポを制御するクロックを選択できます。

※パワースイッチをオンにした時は、必ず内部クロックになっています。

## 5. リモート・インのオン/オフ切替

オンの時は、スタート、ストップ、コンティニュー、ソング・ポジション・ポインター、ソング・セレクトのメッセージを受信します。

※パワースイッチをオンにした時は、必ずオンになっています。

## 6. リモート・アウトのオン/オフ切替

オンの時は、スタート、ストップ、コンティニュー、ソング・ポジション・ポインター、ソング・セレクト、タイミング・クロックのメッセージを送信します。

※パワースイッチをオンにした時は、必ずオンになっています。

※本機の音源で鳴らす場合には、この設定がどちらになっても変わりません。

## 7. モジュレーション・フィルターのオン/オフ切替

オンの時は、モジュレーション(モジュレーション・デプス)メッセージを送・受信可能です。

※パワースイッチをオンにした時は、必ずオンになっています。

※記録済みのデータを本機の音源で鳴らす場合には、この設定がどちらになっても変わりません。

## 8. ボリューム・フィルターのオン/オフ切替

オンの時は、マニュアル・ボリューム・メッセージを送・受信可能です。

※パワースイッチをオンにした時は、必ずオンになっています。

※記録済みのデータを本機の音源で鳴らす場合には、この設定がどちらになっても変わりません。

## 9. エクスプレッション・フィルターのオン/オフ切替

オンの時は、エクスプレッション・ペダル・メッセージを送・受信可能です。

※パワースイッチをオンにした時は、必ずオンになっています。

※記録済みのデータを本機の音源で鳴らす場合には、この設定がどちらになっても変わりません。

## 10. ペダル・フィルターのオン/オフ切替

オンの時は、ダンパー・ペダル、ソステヌート・ペダル、ソフト・ペダルのメッセージを送・受信可能です。

※パワースイッチをオンにした時は、必ずオンになっています。

※記録済みのデータを本機の音源で鳴らす場合には、この設定がどちらになっても変わりません。

## 11. その他のコントロール・チェンジ・フィルターのオン/オフ切替

オンの時は、下記以外のコントロール・チェンジ・メッセージを送・受信可能です。

- 7.のモジュレーション・メッセージ
- 8.のマニュアル・ボリューム・メッセージ
- 9.のエクスプレッション・ペダル・メッセージ
- 10.のダンパー、ソステヌート、ソフト・ペダルのメッセージ

※パワースイッチをオンにした時は、必ずオンになっています。

※記録済みのデータを本機の音源で鳴らす場合には、この設定がどちらになっても変わりません。

## 12. チャンネル・モード・メッセージ・フィルターのオン/オフ切替

オンの時は、チャンネル・モード・メッセージを送・受信可能です。

※パワースイッチをオンにした時は、必ずオンになっています。

## 13. プログラム・チェンジ・フィルターのオン/オフ切替

オンの時は、プログラム・チェンジ・メッセージを送・受信可能です。

※パワースイッチをオンにした時は、必ずオンになっています。

※記録済みのデータを本機の音源で鳴らす場合には、この設定がどちらになっても変わりません。

## 14. ピッチベンド・フィルターのオン/オフ切替

オンの時は、ピッチベンド・メッセージを送・受信可能です。

※音色によっては、受信しても効果がかからないものがあります。(33ページの「音色一覧表」参照)

※パワースイッチをオンにした時は、必ずオンになっています。

※本機の音源は±300セントの範囲で対応します。

※記録済みのデータを本機の音源で鳴らす場合には、この設定がどちらになっても変わりません。

## 15. アフタータッチ・フィルターの切替

アフタータッチ(ポリフォニック・キープレッシャーおよびチャンネル・プレッシャー)のメッセージを送・受信させるかどうかを指定できます。

※パワースイッチをオンにした時は、必ずオフになっています。

※本機の音源にはアフタータッチの機能がないため、この設定がオンになってもアフタータッチはかかりません。ただし記録はできます。

## 16. エクスクルーシブ・フィルターのオン/オフ切替

オンの時は、システム・エクスクルーシブ・メッセージを送・受信可能です。

※パワースイッチをオンにした時は、必ずオンになっています。

※記録済みのデータを本機の音源で鳴らす場合には、この設定がどちらになっても変わりません。

## 17. キー・ディレイ・タイムの設定

※パワースイッチをオンにした時は、必ず0.0になっています。

本機のMIDIデータの出力よりもLINE OUT信号の出力を遅らせる機能です。

※本機の音源による発音のみ遅らせる機能のため、ビート表示、メトロノーム音、小節のカウント表示とはズレが生じます。

## 18. タッチ・チェンジのオン/オフ切替

下記のクラビノーバを音源にして、再生専用ディスクを再生した場合、ピアノパート(トラック1,2)のタッチ(ペロシティ)が弱くなることがあります。この場合は、オンにしてください。オンにすることにより、タッチの弱さを補正することができます。

CVP-3、CVP-5、CVP-6、CVP-7、CVP-8、CVP-10、  
CLP-20、CLP-30、CLP-40、CLP-45、CLP-50、CLP-55、  
CLP-100、CLP-200、CLP-300、CLP-500

※パワースイッチをオンにした時は、必ずオフになっています。

※ファンクションボタンを押しながらパワースイッチをオンにするだけでも、この設定をオンにすることができます。

※該当機種以外の時にオンにすると、ピアノパートだけが逆に大きくなってしまいます。

## MIDIデータフォーマット

MIDIデータフォーマットを読める方をご覧ください。本機のMIDI仕様を素早く調べたり、細かく知る上で役立つことがあります。

この項では、数値の表現方法として2進数、10進数、16進数の3通りが行われていますので、ご注意ください。原則として、8桁表示のもの(たとえば“1001nnnn”など)は2進数、2桁表示で右側にHの付いたもの(たとえば“9nH”など)は16進数、その他は10進数となっています。

### 送・受信データ

#### 1. チャンネル・インフォメーション

##### ◆チャンネル・ボイス・メッセージ

##### ① ノート・オン/オフ:

鍵盤の押鍵情報です。

ステータス	1 0 0 1 n n n n (9nH)	n=0(チャンネルNo1)~15(チャンネルNo16)
ノートNo.	0 k k k k k k k k	k=0(C-2)~127(G8)
ペロシティ	0 v v v v v v v v	v=0~127(1~127:キー・オン, 0:キー・オフ)

##### ② ノート・オフ:

ノート・オフをステータス8nHで送・受信する機器との対応のためです。

ステータス	1 0 0 0 n n n n (8nH)	n=0(チャンネルNo1)~15(チャンネルNo16)
ノートNo.	0 k k k k k k k k	k=0(C-2)~127(G8)
ペロシティ	0 v v v v v v v v	v=0~127

※記録時にノート・オフの情報を9nHで受ければ再生時にも9nHで、8nHで受ければ再生時にも8nHで送ります。

※本機の音源部は、ノート・オフ・ペロシティを無視します。

※本機の音源部はノートNo.21(A-1)~108(C7)に直接対応し、それ以外のノートNo.に対しては、A-1~C7の範囲で折返し発音します。

##### ③ ポリフォニック・キー・プレッシャー:

アフター・タッチを本メッセージで送・受信する機器との対応のためです。

ステータス	1 0 0 1 n n n n (9nH)	n=0(チャンネルNo1)~15(チャンネルNo16)
ノートNo.	0 k k k k k k k k	k=0(C-2)~127(G8)
プレッシャー値	0 v v v v v v v v	v=0~127

※①~③に関しては、イン・トランスポーズをかけると、受信ノートNo.が変更されて記録および発音され、アウト・トランスポーズをかけると、記録されているノートNo.が変更されて送信および発音されます。

#### ④コントロール・チェンジ:

未定義のコントロールNo.についても、バイト構成が正しければ記録・送信します。

ステータス 1011nnnn (BnH) n=0(チャンネルNo1)~15(チャンネルNo16)  
コントロールNo 0ccccccc  
コントロール値 0vvvvvvvv

本機の音源部が対応可能なメッセージ

コントロールNo	コントロール値
c=1 モジュレーション(ビブラート)	v=0(オフ)~127(最大)
c=7 マニュアル・ボリューム	v=0(オフ)~127(最大)
c=11 エクスプレッション・ペダル	v=0(オフ)~127(最大)
c=64 ダンパー・ペダル	v=0(オフ)~127(最大)
c=66 ソステヌート・ペダル	v=0~63(オフ), 64~127(オン)
c=67 ソフト・ペダル	v=0~63(オフ), 64~127(オン)

#### ⑤プログラムチェンジ:

音色の切り替え情報です。

ステータス 1100nnnn (CnH) n=0(チャンネルNo1)~15(チャンネルNo16)  
プログラムNo 0pppppppp

#### ⑥チャンネルプレッシャー:

アフタータッチを本メッセージで送・受信する機器との対応のためです。

ステータス 1101nnnn (DnH) n=0(チャンネルNo1)~15(チャンネルNo16)  
プレッシャー値 0vvvvvvvv v=0~127

※本機の音源部は、このメッセージを無視します。

#### ⑦ピッチ・ベンド・チェンジ:

音程の上下変化の情報です。

ステータス 1110nnnn (EnH) n=0(チャンネルNo1)~15(チャンネルNo16)  
値(LSB) 0ccccccc  
値(MSB) 0ddddddd

※本機の音源部は、±300セントの範囲で対応します。ただし、対応する音色と対応しない音色があります。(33ページの“音色一覧表”を参照)

#### ◆チャンネル・モード・メッセージ

ステータス 1011nnnn (BnH)	n=(チャンネルNo1)~15(チャンネルNo16)
コントロールNo 0ccccccc	c=121(リセット・オール・コントローラー*) c=122(ローカル・コントロール), c=123(オール・ノート・オフ*), c=124(オムニ・オフ/オール・ノート・オフ), c=125(オムニ・オン/オール・ノート・オフ), c=126(モノ・モード・オン/オール・ノート・オフ), c=127(モノ・モード・オフ/オール・ノート・オフ)
コントロール値 0vvvvvvvv	ローカル・コントロール v=0(オフ), 127(オン) ローカル・コントロール以外 v=0

●リセットオールコントローラーおよびオールノートオフは、本機の受信モードがオムニオンの時には記録されません。

※124および125のメッセージでは、本機の受信モードの設定は変わりません。

## 2.システム・インフォメーション

### ◆システム・コモン・メッセージ

#### ①ソング・ポジション・ポインター:

曲の始めから数えたMIDIビートの数で、本機を早送りまたは戻すと送信され、停止中または一時停止中にこのメッセージを受信すると、その位置の停止または一時停止に変わります。

ステータス 11110010 (F2H) ソング・ポジション・ポインター  
値(LSB) 0LLLLLLL  
値(MSB) 0hhhhhhh

※1 MIDIビート=6 MIDIクロック=16分音符を表わします。

#### ②ソング・セレクト:

本機で曲の番号を変えるとその曲の番号を送信し、停止中にこのメッセージを受信するとその番号の曲になります。

ステータス 11110011 (F3H) ソング・セレクト  
曲番号 0sssssss

### ◆システム・リアルタイム・メッセージ

#### ①タイミング・クロック:

内部クロックの状態にした時は96分おきに送信し、外部クロックの状態にした時は96分のタイミングとして受信します。

ステータス 11111000 (F8H)

#### ②スタート:

本機で記録スタートさせたり再生スタートさせると送信し、停止中に受信すると本機が再生スタート、記録待機状態に受信すると本機が記録スタートします。

ステータス 11111010 (FAH)

#### ③コンティニュー:

本機で一時停止の状態から再スタートさせると送信し、一時停止の状態を受信すると本機が再スタートします。

ステータス 11111011 (FBH)

#### ④ストップ:

本機で停止または一時停止させると送信し、受信すると本機が停止または一時停止します。

ステータス 11111100 (FCH)

#### ⑤アクティブ・センシング:

約200msecごとに1回送信します。また一度このデータを受信し、その後400msec以内の間に何もMIDIメッセージがない場合には、MIDI INケーブルの断線(または、はずれた)とみなされ、キー・オン中の音がオフされます。

ステータス 11111110 (FEH)



### ◆システム・エクスクルーシブ・メッセージ

記録中に受信したメッセージは全て記録され、再生時に送信します。

ただしバイト数が1kバイトを越えるものについては、記録待機の初期値としてのみ記録可能です。

#### ①ネーム・データ・バルク・ダンプ・リクエスト:

このメッセージを受信するとネーム・データを送信します。

```
ステータス 11110000 (FOH) "システムエクスクルーシブ"
ID No. 01000011 (43H) "ヤマハ"
サブステータス 0010nnnn (2nH) n=0(チャンネルNo1)~15(チャンネルNo16)
フォーマットNo. 0111101 (7DH)
EOX 11110111 (F7H)
```

#### ②ネーム・データ:

ネーム・データ・バルク・ダンプリクエストのメッセージを受信すると、このデータを送信します。

```
ステータス 11110000 (FOH) "システムエクスクルーシブ"
ID No. 01000011 (43H) "ヤマハ"
サブステータス 0000nnnn (0nH) n=0(チャンネルNo1)~15(チャンネルNo16)
フォーマットNo. 0111101 (7DH)
バイトカウント
(MSB) 00000000 (00H)
ババババババ
```

```
バイトカウント
(LSB) 00010000 (10H)
01010011 (53H) "S"
01001011 (4BH) "K"
00100000 (20H) "スペース"
00100000 (20H) "スペース"
00110010 (32H) "2"
00110001 (31H) "1"
00110111 (37H) "7"
00110101 (35H) "5"
00100000 (20H) "スペース"
00100000 (20H) "スペース"
```

```
バージョンNo. 0bbbbbbb
0bbbbbbb
00100000 (20H) "スペース"
00100000 (20H) "スペース"
00100000 (20H) "スペース"
00100000 (20H) "スペース"
```

```
チェックサム 0eeeeeee
EOX 11110111 (F7H)
```

#### ③リバーブ切替:

このメッセージを受信すると、リバーブの設定が変わります。

```
ステータス 11110000 (FOH) "システムエクスクルーシブ"
ID No. 01000011 (43H) "ヤマハ"
ID No. 01110011 (73H) "クラビノーバ"
ID No. 00000001 (01H) "共通機種ID"
特殊操作子 00010001 (11H)
サブステータス 0000nnnn (0nH) n=0(チャンネルNo1)~15(チャンネルNo16)
コントロールNo. 01011001 (59H) "リバーブ"
コントロール値 0000vvvv v=0(オフ), 1(ルーム), 2(ホール1), 3(ホール2),
4(コズミック)
EOX 11110111 (F7H)
```

# DOM-30

## MIDIインプリメンテーションチャート

Date:1989.10.12  
Version: 1.0

ファンクション…	送	信	備 考
ベーシック 電源ON時 チャンネル 設定可能	全チャンネル ×	1チャンネル 1~16チャンネル	
モード 電源ON時 メッセージ	オムニ・オン、オムニ・オフ ポリ、モノ	オムニ・オン、オムニ・オフ ポリ、モノ	※1、 ※2 ※1、 ※2
ノート ナンバー 音域	0~127 *****	0~127 21~108	※1 ※3
ペロシティ ノート・オン ノート・オフ	○ 9nH、v=1~127 × 9nH、v=0、8nH	○ ○	※1、 ※3 ※2
アフター キー別 タッチ チャンネル別	○ ○	○ ○	※1、 ※2 ※1、 ※2
ピッチ・ベンダー	○	○	※1、 ※2、 ※3
0~120	○	○	※1、 ※2
01	○	○	モジュレーション ※3
07	○	○	ボリューム ※3
11	○	○	エクスプレッション ※3
64	○	○	ダンパー ※3
66	○	○	ソステヌート ※3
67	○	○	ソフトペダル ※3
121	○	○	※4 全コントローラー・リセット ※1、 ※2、 ※3
プログラム チェンジ 設定可能範囲	○ 0~99 *****	○ 0~99 0~99	※1、 ※2、 ※3
システム・エクスクルーシブ	○	○	※1、 ※2、 ※3
システム ソング・ポジション ソング・セレクト コモン チューン	○ ○ ×	○ ○ ×	※2 ※2
システム クロック リアルタイム コマンド	○ ○	○ ○	※2 ※2
その他 ローカルON/OFF オール・ノート・オフ アクティブ・センシング リセット	○ ○ ○ ×	○ ○ ○ ×	※1、 ※2 ※4 ※1、 ※2、 ※3
備 考	※1 受信データを記録し、記録したデータを送信する。 ※2 各ファンクションの設定により、オン/オフが決定される。 ※3 音源部および受信に対して対応。 ※4 受信モードオフの場合に受信可能。		

モード1：オムニ・オン、ポリ    モード2：オムニ・オン、モノ    ○：あり  
 モード3：オムニ・オフ、ポリ    モード4：オムニ・オフ、モノ    ×：なし

# 8. エラー表示について 9. 仕様

エラー表示の意味と対処の方法を紹介します。

## DISK ERROR

ディスク上に異常があるディスクを挿入した、または記録や再生時に異常があった場合に表示されます。

別のディスクを使用するか、またはフォーマットしてください。フォーマットすると、それまで記録されていたデータは消えてしまいますので、ご注意ください。

## Unformat DISK

次のディスクをセットした場合に表示されます。

- フォーマットされていないディスクを挿入した。
  - フォーマットが異なるディスクを挿入した。
- 別のディスクを使用するか、またはフォーマットしてください。フォーマットすると、それまで記録されていたデータは消えてしまいますので、ご注意ください。

## PROTECT !!

次の場合に表示されます。

- ディスク裏面のツメを記録不可の側にセットしたディスクを挿入して、記録しようとした。  
別のディスクを使用するか、またはツメを記録可の側に切り替えてください。
- 再生専用のディスクを挿入して、記録しようとした。  
再生専用ディスクには記録できません。別のディスクをご使用ください。
- 再生専用ディスクの曲をコピーまたは削除しようとした。

## NO PHRASE MARK

フレーズマークが記録されていない曲の時に、フレーズリピートボタンを押すと表示されます。フレーズマークを付ければ、フレーズリピートが可能です。

記憶媒体：3.5インチ2DDマイクロフロッピーディスク

最大曲数：60曲

トラック数：11トラック(10 + リズムトラック)

音符分解能：192分

同時発音数：全トラック合計で最大16音

(リズムトラック15は別で8音)

全トラック対応音色数：100音色 00(ピアノ1)~99(波)

(ただし、リズムトラック15は異なる。)

リズムトラック15対応音色数：44音色

テンポ：♩ = 32~280

拍子：4/4、3/4、2/4、6/8

LCD：16文字×1段ディスプレイ

コントロール：パワースイッチ、マスターボリューム、ディスク取り出しボタン、センドチャンネルスイッチ、ソングセレクトボタン、プレイトラックセレクト(1、2、3-10、15)ボタン、フレーズリピートボタン、メトロノームボタン、パンチイン/アウトボタン、スタート▶/ストップ■ボタン、ポーズ||ボタン、戻し◀◀ボタン、早送り▶▶ボタン、レコード●ボタン、リバーブボタン、ファンクションボタン、ノー◀ボタン、▶イエスボタン、トラック(0)ボタン、テンポ(1)ボタン、ボイス(2)ボタン、ボリューム(3)ボタン、ビート(4)ボタン、クオンタイズ(5)ボタン、トランスポーズ(6)ボタン、チューン(7)ボタン、ディスク(8)ボタン、MIDI(9)ボタン

その他：ユーズランプ、3.5インチフロッピーディスクドライブ、ビートランプ、LCD、音色リスト

付属端子：ラインアウト端子(L、R)、フットスイッチ端子、MIDI端子(IN、OUT、THRU)、電源アダプター接続用端子

定格電源：DC9V~12V(PA-4を使用)

消費電流：1A

寸法：(間口)310mm×(奥行)245mm(高さ)84mm

重量：2.0kg

付属品：再生専用3.5インチ2DDマイクロフロッピーディスク ×1枚、

ピンプラグコード×1本、

MIDIケーブル×2本、

電源アダプター・PA-4×1個

# 10. 音色一覧表

No.	音色の名称		シンセ 対応	No.	音色の名称		シンセ 対応
00	PIANO 1	ピアノ1	×	50	SYNTH STRINGS 1	シンセストリングス1	×
01	PIANO 2	ピアノ2	×	51	SYNTH STRINGS 2	シンセストリングス2	×
02	HONKY TONK PIANO	ホンキートンクピアノ	×	52	ORCHESTRA HIT	オーケストラヒット	○
03	E. PIANO 1	エレクトリックピアノ1	×	53	TRUMPET/TROMBONE	トランペット/トロンボーン	○
04	E. PIANO 2	エレクトリックピアノ2	×	54	MUTE TRUMPET	ミュートトランペット	○
05	E. PIANO 3	エレクトリックピアノ3	×	55	HORN	ホルン	×
06	E. PIANO 4	エレクトリックピアノ4	×	56	BRASS 1	ブラス1	○
07	SYNTH PIANO	シンセピアノ	×	57	BRASS 2	ブラス2	○
08	CELESTA	チェレスタ	×	58	SYNTH BRASS 1	シンセブラス1	○
09	MARIMBA	マリンバ	×	59	SYNTH BRASS 2	シンセブラス2	○
10	BANBOO MARIMBA	バンブーマリンバ	○	60	SYNTH BRASS 3	シンセブラス3	○
11	KARIMBA	カリンバ	○	61	SAX	サクソ	○
12	VIBES	バイブ	×	62	CLARINET	クラリネット	×
13	MUSIC BOX	ミュージックボックス	○	63	RECORDER	リコーダー	×
14	SYNTH CRYSTAL	シンセクリスタル	×	64	FLUTE	フルート	×
15	CLAVI	クラビ	○	65	PAN FLUTE	パンフルート	×
16	SYNTH CLAVI	シンセクラビ	○	66	OBOE	オーボエ	×
17	JAZZ ORGAN 1	ジャズオルガン1	×	67	BASSOON	バスーン	×
18	JAZZ ORGAN 2	ジャズオルガン2	×	68	BAGPIPE	バグパイプ	×
19	ROCK ORGAN	ロックオルガン	×	69	HARMONICA	ハーモニカ	×
20	PIPE ORGAN	パイプオルガン	×	70	ACCORDION	アコーディオン	×
21	FOLK GUITAR	フォークギター	○	71	SYNTH 1	シンセ1	○
22	12 STR. GUITAR	12弦ギター	○	72	SYNTH 2	シンセ2	×
23	ACOUSTIC GUITAR	アコースティックギター	×	73	SYNTH 3	シンセ3	○
24	JAZZ GUITAR	ジャズギター	○	74	SYNTH 4	シンセ4	○
25	ROCK GUITAR 1	ロックギター1	○	75	SYNTH 5	シンセ5	○
26	ROCK GUITAR 2	ロックギター2	○	76	DRUMS	ドラムス	×
27	DISTORTION GUITAR	ディストーションギター	○	77	TIMPANI/STEEL DR	ティンパニ/スチールドラム	×
28	MUTE GUITAR	ミュートギター	○	78	AFRICAN PERCUS	アフリカパーカッション	○
29	BANJO	バンジョー	×	79	GAMELAN	ガメラン	○
30	SITAR	シタール	○	80	CHOIR	クアアイア	×
31	HARP	ハープ	×	81	SYNTH VOX 1	シンセボックス1	×
32	KOTO	琴	○	82	SYNTH VOX 2	シンセボックス2	○
33	HARPSICHORD 1	ハープシコード1	×	83	OW !	"アウ"	○
34	HARPSICHORD 2	ハープシコード2	×	84	AQUA	アクア	○
35	HARPSICHORD 3	ハープシコード3	×	85	LANDSCAPE	ランドスケープ	○
36	E. BASS 1	エレクトリックベース1	○	86	ICE BLOCK	氷塊	○
37	E. BASS 2	エレクトリックベース2	○	87	CRYSTAL BLOCK	水晶	○
38	E. BASS 3	エレクトリックベース3	○	88	SAMBA WHISTLE	サンバホイッスル	○
39	SLAP BASS	スラップベース	○	89	BIRDS	鳥	○
40	SYNTH BASS 1	シンセベース1	○	90	HAMMER SHOT	ハンマーショット	○
41	SYNTH BASS 2	シンセベース2	○	91	INVADER	インベダー	○
42	SYNTH BASS 3	シンセベース3	○	92	SHOCK ALARM	ショックアラーム	×
43	UPRIGHT BASS 1	アップライトベース1	○	93	WATER DROP	雨だれ	○
44	UPRIGHT BASS 2	アップライトベース2	○	94	EMERGENCY	緊急	×
45	UPRIGHT BASS 3	アップライトベース3	○	95	ZING	活気	×
46	VIOLIN/CELLO	バイオリン/チェロ	×	96	RACING CIRCUIT	レーシングサーキット	×
47	PIZZICATO	ピチカート	×	97	SCRAPE	摩擦	×
48	STRINGS 1	ストリングス1	×	98	CONSTRUCTION	建設	×
49	STRINGS 2	ストリングス2	×	99	WAVE	波	×

○：対応する    ×：対応しない

# 11. 表示一覧表

ディスプレイに表示される様々なメッセージをABC順に並べました。表示の意味がわからなくなった時の索引としてお使いください。

表示と表示名または設定範囲等	意味	説明	表示と表示名または設定範囲等	意味	説明
ARE YOU SURE ? ア ユー シュア ？	本当にいいですか？	23,24	IN Transp. 0 イン トランスポーズ -6~6	イン・トランスポーズ設定値	17
A. Touch Off アフター タッチ オフ、キー、 チャンネル、ポーズ	アフター・タッチ・フィルターの 設定	26	Key Delay 0.0 キー デレイ 0.0~500.0	キー・ディレイ・タイムの設定	26
BEAT 4/4 ビート 4/4、3/4、2/4、6/8	記録する曲の拍子	15	MARK ERASE OK? マーク イレース オーケー？	フレーズ・マークを消していいで すか？	12
DELETE SONG ** デリート ソング ??	ソング・デリート機能で削除する 曲の番号	24	Mode_MSG On モード メッセージ オン、オフ	チャンネル・モード・メッセージ・ フィルターの設定(オン/オフの 選択)	26
DISK COPY ディスク コピー	ディスク・コピー機能	24	Modulation On モジュレーション オン、オフ	モジュレーション・フィルターの 設定(オン/オフの選択)	25
DISK ERROR ディスク エラー	ディスク上に異常があるディス クを挿入した。	32	NO PHRASE MARK ノー フレーズ マーク	フレーズマークが付いていない。	32
DISK FORMAT ディスク フォーマット	ディスク・フォーマット機能	13	NOW READING... ナウ リーディング……	コピー元から読み込み中	24
Exclusive On エクスクルーシブ オン、オフ	エクスクルーシブ・フィルターの 設定(オン/オフの選択)	26	NOW Working ナウ ワーキング	コピー先へ書き込み中	16,23
Expression On エクスプレッション オン、オフ	エクスプレッション・フィルターの 設定(オン/オフの選択)	25	NOW WRITING... ナウ ライティング……	コピー先ディスクへ書き込み中	24
Foot_SW Next_Phr フット スイッチ ネクスト フレーズ	フットスイッチがネクストフレ ーズモード	12	Other_CNT On アザー コントロール オン、オフ	その他のコントロール・チェンジ・ フィルターの設定(オン/オフの 選択)	26
Foot_SW ST/Pause フット スイッチ スタート/ポーズ	フットスイッチがスタート/ポ ーズモード	12	OUT Transp. 0 アウト トランスポーズ -6~6	アウト・トランスポーズ設定値	10
FORMAT START ? フォーマット スタート ？	フォーマットを行うのか？とい う、質問の表示	13	OVER DUBBING ? オーバー ダビング ？	トラック15に重ねて記録しま すか？	22
FORMAT 80 フォーマット 80、79、78、……	フォーマット実行中/実行のめや す(数値が1ずつ小さくなって いきます。)	13	Pedal On ペダル オン、オフ	ペダル・フィルターの設定(オン /オフの選択)	25
FROM 1 TO 1 フロム ？ トゥ ？	ソング・コピー機能使用時のコ ピー元とコピー先の曲番号	23	PHRASE_REP. 01 フレーズ リピート	フレーズ・リピート機能/フレー ズNo.	11
INSERT SOURCE ! インサート ソース !	コピー元のディスクを挿入して ください。	24	Pitch_Bend On ピッチ ベンド オン、オフ	ピッチベンド・フィルターの設定 (オン/オフの選択)	26
INSERT TARGET ! インサート ターゲット !	コピー先のディスクを挿入して ください。	23,24	Program On プログラム オン、オフ	プログラム・チェンジ・フィル ターの設定(オン/オフの選択)	26

ディスプレイに表示される様々なメッセージをA B C順に並べました。表示の意味がわからなくなった時の索引としてお使いください。

表示と表示名または設定範囲等	意味	説明ページ	表示と表示名または設定範囲等	意味	説明ページ
PROTECT !! プロテクト !!	プロテクトがかかったディスクに記録、または削除しようとした。	32	STORE THIS DATA? ストア ディス データ?	記録したデータを保存しますか?	16
PUSH START SW プッシュ スタート スイッチ	フォーマットを行うなら、スタート▶/ストップ■ボタンを押してください。	13	Sync_Clock INT シンク クロック インターナル、エキスターナル	同期クロックの設定(内部クロック/外部クロックの選択)	25
QUANTIZE 1/4 クオンタイズ 1/4、1/8、1/12、1/16、1/24、1/32	クオンタイズの実行値	17	Touch_change Off タッチ チェンジ オフ、オン	タッチ・チェンジ機能の設定(オフ/オンの選択)	26
RCV_Mode On レシーブ モード オン、オフ、マルチ	受信モードの設定	25	Track No. 1 トラック ナンバー ??	クオンタイズをかけるトラック	17
Receive_CH 1 レシーブ チャンネル 1~16	受信チャンネルの設定	25	TR. M J= 120 トラック マルチ J=32~280	全トラックへの記録待期状態/テンポ設定	21
REC TEMPO CHANGE レック テンポ チェンジ	テンポ変更機能	17	TR. R J= 120 トラック リズム J=32~280	リズムトラック15への記録待機状態/テンポ設定	21
REC_TRACK MULTI レック トラック マルチ	全トラックへの記録状態	21	TR. T J= 42 トラック テンポ J=32~280	テンポ変更中/現在のテンポ	17
REC_TRACK RHYTHM レック トラック リズム	リズムトラック15への記録	22	TR01 VOICE 0 トラック?? ボイス 0~99	これから記録する先のトラック番号/音色番号	9
REC_TRACK 01 レック トラック ??	記録先のトラック番号	15	TR01 VOLUME 100 トラック?? ボリューム 0~100	これから記録する先のトラック番号/音量設定	9
Remote_In On リモート イン オン、オフ	リモート・インの設定(オン/オフの選択)	25	TR01 J= 120 トラック?? J=32~280	これから記録する先のトラック番号/テンポ設定	14
Remote_Out On リモート アウト オン、オフ	リモート・アウトの設定(オン/オフの選択)	25	TUNING 440 トラック?? 427~452	発音の高さ(A3の音の高さ)	11
RHY. Key_No. HIGH リズム キー ナンバー ハイ、ロー	リズム・キー・ナンバーの設定(ハイ/ローの選択)	25	Unformat DISK アンフォーマット ディスク	本機のフォーマットを実行していないディスクをセットした。	32
SONG ALL ソング オール	全曲再生機能	10	Volume On ボリューム オン、オフ	ボリューム・フィルターの設定(オン/オフの選択)	25
SONG COPY ソング コピー	ソング・コピー機能	23	0001 J= 120 001、002、003、... J=32~280	その曲の初めから数えた小節数/テンポ設定	8、10
SONG DELETE ソング デリート	ソング・デリート機能	23	3 4 5 6 * 8 10	トラック3~10の再生オン/オフ	9
SONG_NO 1 ソング ナンバー 1~60	現在の曲番号	7	612Kbyte FREE ???kバイト フリー	記憶残量(???kバイトの残量があります。)	15

# 12. おかしいな?と思ったら

おかしいな?と思ったら、この表を見てください。

- これら以外にも様々なトラブルが考えられますが、意外にちょっとしたところが間違っていたりするものです。あわてずにゆっくりとチェックしてください。
- 本機やクラビノーバはパワースイッチを入れなおすと初期状態に戻ります。トラブルの際はパワースイッチを入れなおして初期状態に戻すと、素早く解決することがあります。
- 本機はMIDI機器の一つであり、他の機器と組み合わせて使用することが多いものです。したがって、使用にあたっては接続する機器のMIDI機能が重要なポイントになります。接続する機器のMIDIに関する記述をよくご覧になって、本機との相性を十分に確認してください。

現象	原因	解決法
1曲まで記録できない。	1曲の演奏時間が長かったり、たくさんの機能を使った場合は、60曲以内でも最大記憶容量を越えてしまい、記録できなくなる。	新しいディスクに記録してください。
記憶容量がまだ十分にあるのに11番以上の番号を選択できない。	1番から60番の範囲で指定できます。	指定しなおしてください。
以前記録したデータが消えてしまった。	記録済みのトラックに記録した。	記録済みのトラックに記録すると、その曲のそのトラックに以前記憶されていたデータは消えてしまいます。 ※トラック15には重ねて記録できます。
音が小さい。全く音が出ない。	マスターボリュームが下がっている。	マスターボリューム等を上げてください。
	押鍵のデータが記録されていない曲を再生している。	曲を変更してください。
	音量(ボリューム)の設定が0になっている。	音量(ボリューム)の設定を上げてください。
	プレイトラックの設定がオフになっている。	オンに戻してください。
	センドチャンネルスイッチが1-2側になっている。	センドチャンネルスイッチをオール側に切り替えてください。
	MIDI接続が不完全。	MIDIケーブルに異常はないか、また接続が間違っていないか確認してください。
リズムがスタートしない。リズムの音が出ない。	外部機器の音量が下がっている。	外部機器の音量を上げてください。
	プレイトラック15の設定がオフになっている。	オンに戻してください。
	リズムが記録されていない曲を再生している。	曲を変更してください。
	トラック15をCLPシリーズのクラビノーバで鳴らそうとしている。	本機の音源で鳴らすか、または設定を確認してください。
	トラック15をCVPシリーズのクラビノーバで鳴らそうとしているが、CVPのリズムボリュームが下がっている。	CVPシリーズのクラビノーバのリズムボリュームを上げてください。
全てのパート、または記録時に押さえた鍵盤の数だけ再生されない。	スタートさせていない。	本機のスタート▶/ストップ■ボタン等を押してください。
	最大同時発音数を数えている。	最大同時発音数以上の音は鳴りません。
	センドチャンネルスイッチが1-2側になっている。	センドチャンネルスイッチをオール側に切り替えてください。
	プレイトラックセレクトボタンが押されて、オフになっている。	オンに戻してください。

現象	原因	解決法
全てのパート、または記録時に押さえた鍵盤の数だけ再生されない。	3~10トラックの中でオフにしてあるトラックがある。	オンに戻してください。
	外部機器の音源で鳴らそうとしている。	本機の音源で鳴らすか、または設定を確認してください。なお、外部機器側で対応しないトラックの演奏は鳴りません。
	記録時に各種フィルターの設定がオフになっている。	オンに戻してください。
記録時と違う音色で鳴る。	外部機器の音源で鳴らしてください。	本機の音源で鳴らしてください。
	同じトラックに複数のパートを記録した。	パートごとにトラックを変えてください。
	記録する時、音色を指定しなかった。	初期音色の変更を行ってください。 (18ページ参照)
	プログラム・チェンジ・フィルターの設定がオフになっている。	オンに戻してください。
記録時にリズムを切り替えたが、再生時にリズムが変わらない。	トラック15への記録時でない時に切り替えた。	トラック15への記録に切り替えてください。
	エクスクルーシブ・フィルターのオン/オフ切替がオフになっている。	エクスクルーシブ・フィルターのオン/オフ切替をオンに戻してください。
記録時にリズムを切り替えたが、再生時にはリズムでなく音色が切り替わってしまう。	マルチティンバーモードにしてトラック15への記録時でない時にリズムを切り替えたために、音色切り替えの情報として記録されてしまった。	トラック15への記録時に切り替えてください。
テンポの値を変えても、実際に変化しない。	外部クロックの状態の時、本機でテンポ変更した。	内部クロックに戻してください。
	内部クロックの状態の時、クラビノーバでテンポ変更した。	本機側で操作してください。
再生専用ディスクを再生させると、ピアノパートの音が小さい。	CVP-6、CVP-8、CVP-10、CLP-300、CLP-500等のクラビノーバを音源として接続している。	タッチチェンジの設定をオンにしてください。 (28ページ参照)
小節数やテンポ、メトロノームが再生音とずれる。	記録する時、曲の感じを出すため小節やテンポに関係なく演奏した曲を再生している。	小節数やテンポ表示は、曲の位置や速さのめやすとしてお使いください。



# 13. アフターサービスと保証

サービスのご依頼は、お買い上げ店へお申し付けください。

●本機の保証は、保証書によりご購入から満1ヵ年です。尚、現金、クレジットなどによる保証の区別はいたしません。  
(日本国内のみ有効)

●保証期間の1ヵ年を過ぎましても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。尚、補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後最低8年となっております。また、保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店か下記、お近くのサービス網宛お問い合わせください。

## ■お買い上げ店による修理調整

故障の場合は、直接お買い上げ店にお持ち込みください。責任を持って修理調整をいたします。

## ■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、ご住所、電話番号などをハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(楽器の具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならぬときにお客さまにご迷惑をおかけしないですみます。)

## YAMAHA電気音響製品サービス拠点

(修理受付および修理品お預り窓口)

北海道電音サービスセンター	〒064 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内 TEL.011-513-5036
仙台電音サービスセンター	〒983 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL.022-236-0249
東京電音サービスセンター	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL.044-434-3100
新潟電音サービスステーション	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーホールビル2F TEL.025-243-4321
浜松電音サービスセンター	〒435 浜松市上西町911 ヤマハ楽宮竹工場内 TEL.0534-65-6711
名古屋電音サービスセンター	〒454 名古屋市中区川玉川町2-1-2 ヤマハ楽名古屋流通センター TEL.052-652-2230
大阪電音サービスセンター	〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内 TEL.06-877-5262
京都電音サービスステーション	〒600 京都市下京区七条道間之町東入材木町483 第2マスイビル3F TEL.075-361-6470
神戸電音サービスステーション	〒650 神戸市中央区元町2-7-3 ヤマハ楽神戸店内 TEL.078-321-1195
四国電音サービスステーション	〒760 高松市丸龜町8-7 ヤマハ楽高松店内 TEL.0878-22-3045
広島電音サービスセンター	〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39 TEL.082-874-3787
九州電音サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL.092-472-2134
〔本社〕 電音サービス部	〒435 浜松市上西町911 TEL.0534-65-1158

\*住所および電話番号は変更になる場合があります

# YAMAHA

YAMAHA CORPORATION

## ヤマハ株式会社

北海道支店 / 〒064 札幌市中央区南十条西1-1 50 ヤマハセンター  
エレクトーン・クラビノーバ推進課 TEL.011(512)6114

仙台支店 / 〒980 仙台市大町2-2-10 住友生命仙台青葉通りビル  
エレクトーン・クラビノーバ推進課 TEL.022(222)6141

東京支店 / 〒104 東京都中央区銀座7-9-18 パールビル  
エレクトーン・クラビノーバ推進課 TEL.03(572)3140

名古屋支店 / 〒460 名古屋市中区錦1-18-28  
エレクトーン・クラビノーバ推進課 TEL.052(201)5140

大阪支店 / 〒542 大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋ブラザビル東館  
エレクトーン・クラビノーバ推進課 TEL.06(252)7541

広島支店 / 〒730 広島市中区紙屋町1 1 18  
エレクトーン・クラビノーバ推進課 TEL.082(244)3748

九州支店 / 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4  
エレクトーン・クラビノーバ推進課 TEL.092(472)2152

本社

楽器営業本部

電子楽器営業部

クラビノーバ営業課 / 〒430 浜松市中沢町10-1  
TEL.0534(60)3275

**YAMAHA**  
YAMAHA CORPORATION  
ヤマハ株式会社